一爲替證書調製上違式ノトキ若クハ其證書ニ對スル報知書未達又ハ不符合ノトキ
一爲替資金ノ補充金未達ノトキ

第十四條　規則上爲替金ノ交付ヲ停延シタル間ハ爲替證書有効期限ノ經過ヲ中止スルモノトス

第十五條　爲替取扱時間ハ爲替ヲ取扱フ郵便局前ニ掲示スヘシ

爲替取扱休日ハ左ノ如シ

一月一日二日三日
孝明天皇祭
春季皇靈祭
秋季皇靈祭
天長節
日曜日
新年宴會
紀元節
神武天皇祭
神宮神嘗祭
新嘗祭

第十六條　驛遞局上版ノ料紙ヲ用フヘキ願書請求書等ノ式紙ハ爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ申受クヘシ

第二章　爲替振出

第十七條　爲替ヲ願出ルモノハ上版ノ願書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ヲ添ヘ之ヲ郵便局吏員ニ差出シ爲替證書及受領證書（其爲替電信ニ依ルトキハ受領證書ノミ）ヲ受收スヘシ

其爲替願書ニハ受取人人違ヲ生セサル豫防トシテ家號又ハ商標ノ略符等ヲ附記スルモ妨ケナシ但其爲替電信ニ依ルトキハ此限ニアラス

願書ノ書體ハ最明瞭ヲ要シ後日取調上差支ヲ生セサルヲ主トシ差出人受取人ノ宿所ハ其詳略ヲ斟酌シ又其氏名ハ固有ノ文字ヲ用フヘシ且名宛ノ郵便局ハ受取人爲替金ヲ受クルニ便宜ナル郵便局ヲ指定スヘシ但其爲替電信ニ依ル場合ニ在リテハ願書ニ本字ヲ以テ記載シタル差出人受取人ノ宿所氏名ノ傍ニ片仮名文字ヲ附記スヘシ

第十八條　爲替ヲ願出ルモノアルトキハ振出局吏員ハ爲替願書ニ依リ差出人ノ指定シタル郵便局ヲ宛テ爲替證書ヲ調製シ拂込金ニ對スル受領證書ト共ニ之ヲ差出人ニ交付シ且爲替願書ノ諸件ヲ其名宛ノ郵便局ニ報知スヘシ但電信ニ依ルトキハ其特則ニ依ルヘシ

第十九條　爲替願書ニハ差出人又ハ受取人二名以上連帶ノ場合ト雖モ各一名ヲ記載スヘシ

第二十條　差出人旅行先又ハ一時寄留ノ場所ニ於テ爲替ヲ願出ルトキハ爲替願書ニ

本籍住所ヲ記載シ尚其宿所ヲ附記スヘシ

第二十一條　差出人ハ受取人ニ於テ拂渡局吏員ノ尋問ニ對シ爲替報知書ニ記載アル諸件ヲ陳述シ得ル爲メ爲替願書ニ書入レタル諸件ヲ受取人ニ通知スヘシ（其爲替電信ニ依ルトキハ通知セサルモ妨ケナシ）但詐僞ヲ避クル豫防ノ爲メ此通知ハ爲替證書ヲ遞送スル信書ト成ルヘク同時ニナスヘカラス

第二十二條　代人ヲ以テ爲替ヲ願出ルトモ爲替報知書ニ其氏名ヲ記入セサルヲ以テ一般ノ例トス但其氏名ヲ報知スルコトヲ望ムモノ爲替願書ニ其旨ヲ附記シタル場合ハ此限ニアラス

第二十三條　差出人爲替證書ヲ受取リタル後差出人受取人氏名宿所等ノ認メ方相違シタル事アルトキハ其振出局ニ訂正願書ヲ差出スヘシ但電信ニ依リ爲替ヲ報知シタル場合ニ在リテハ相當ノ電報料ヲ納ムヘシ

第二十四條　差出人爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ前ニ受收シタル拂込金受領證書ヲ振出局ニ返納シ爲替金ヲ受取ルヘシ但受領證書紛失ノ場合ニ於テハ其爲替金高番號及振出月日等ヲ記載シタル爲替金返戻願書ヲ差出スヘシ

第三章　爲替拂渡

第二十五條　爲替證書ノ金額ハ差出人ノ指定セル拂渡局ニ於テ其振出局ノ爲替報知書ニ照ラシ受取人ヲ尋問シタル後拂渡スモノトス

第二十六條　爲替證書ノ金高番號又ハ受取人ノ答辯等爲替報知書ニ符合セサルカ又ハ報知書未達等ノ事故アルトキハ拂渡局ニ於テ受取人ニ拂渡停延書ヲ交付シ其事故ヲ振出局ニ問合スヘシ

受取人ハ停延書ノ滿期ニ至リテ更ニ爲替金ノ拂渡ヲ申出テ尚ホ規則ノ通手數ノ上爲替金ヲ受取ルヘシ

第二十七條　若シ前條ノ場合ニ於テ振出局ヨリ回付セル更訂報知書ノ金額證書ノ金額ニ過不及アリテ證書金額ノ誤ナルコト判明シタルトキハ其受取人ハ證書ノ裏面ニ現實受取ルヘキ金額及其事故ヲ記載記名調印シ其金ヲ受取ルコトヲ得

第四章　爲替證書再渡

第二十八條　爲替證書再渡ヲ要スルトキハ次キニ掲クル第二十九條乃至第三十一條ニ從ヒ爲替差出人若クハ受取人ハ上版ノ請求書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經由シテ驛遞局ニ請求スヘシ

第二十九條　左ノ場合ニ於テハ爲替差出人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一　爲替證書紛失シタルトキ又ハ汚瑕毀損シテ金高番號印章等必要ノ部分不判明ニ

ナリタルトキ

一爲替證書ニ示ス振出局ニテ爲替金ノ返戻ヲ受クルニ不便ノ爲メ他局ニ於テ返戻ヲ受クルコトヲ要スルトキ

第三十條　左ノ場合ニ於テハ爲替受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ

一爲替證書ニ示ス拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ノ爲メ拂渡局ノ變更ヲ要スルトキ

第三十一條　左ノ場合ニ於テハ爲替差出人又ハ受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但差出人ヨリ請求スルトキハ拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一爲替證書有効期限ヲ失ヒタルトキ

第五章　電信ニ依ル爲替ノ特則

第三十二條　電信ニ依テ爲替ヲ發スルトキハ振出局ニ於テ差出人ノ拂込金ニ對シ受領證書ヲ交付シ爲替願書ニ差出人ノ指定シタル郵便局ニ願書ノ諸件ヲ電報スヘシ

第三十三條　拂渡局ハ電信報知ニ由リ爲替證書ヲ調製シ爲替ノ諸件ヲ其受取人ニ通報スヘシ

受取人ハ拂渡局ノ通報ニ依リ其通知書ヲ拂渡局吏員ニ差出シ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十四條　前條ノ通知ヲ發シタル日ヨリ七日以內ニ爲替證書ノ渡方ヲ請求セサルトキハ拂渡局ヨリ更ニ受取人ニ通報スヘシ

其通報ノ日ヨリ尙七日以內ニ證書渡方ヲ請求セサルトキハ振出局ヲ經テ之ヲ其差出人ニ交付スヘシ

第三十五條　拂渡局ヨリ前條ノ證書到達シタルトキハ振出局ニ於テ其旨ヲ差出人ニ通報スヘシ

差出人ハ振出局吏員ニ前ニ受收シタル受領證書ヲ示シ振出局ノ通知書ト引換ヘ爲替證書ヲ受取ルヘシ

第三十六條　前二條ノ順序ヲ經タル後ハ再度電報ニ依リテ其爲替金ヲ受授スルコトヲ得ス故ニ差出人證書ヲ受取リタル後尙其爲替金ヲ受取人ノ受取ルコトヲ望ムトキハ其證書ヲ受取人ニ廻送スヘシ若シ其爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ第二章第二十四條ノ手續ヲナスヘシ

●郵便小爲替規定

明治二十年六月遞信省告示第百十七號

郵便小爲替規定左ノ通改定シ本年七月十五日ヨリ施行ス

郵便小爲替規定

第一條　郵便小爲替證書壹枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ釐位ヲ限リトス

第二條　爲替料ハ小爲替證書一枚ニ付參錢トス

第三條　小爲替ハ差出人ノ指定シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス

第四條　爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替金及爲替料ヲ差出シ小爲替證書及受領證書ヲ受取ヘシ

第五條　爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得

第六條　小爲替證書ニ記載ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ノ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ

但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ

第七條　爲替受取人爲替金ヲ受取ルトキハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ遞送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘキ他ノ物件ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第八條　爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキハ其證書裏面ニ記名調印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ差出人タルコトヲ證明スヘシ

第九條　代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ爲替金受取方相當ノ手續ヲナスヘシ

第十條　小爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ六十日ヲ限リトス

第十一條　郵便局ノ許可ヲ受ケス拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ヲ訂正シタルトキハ爲替金ヲ拂渡サヽルモノトス

但第六條ニ依リ更ニ許可ヲ經タルモノハ此限ニアラス

第十二條　左ニ掲クル場合ニアリテハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ再度小爲替證書ヲ請求スヘシ

但第一項ノ場合ハ受取人ヨリ之ヲ請求スルヲ得

一　小爲替證書有効期限ヲ經過シタルトキ

二　小爲替證書ヲ失ヒタルトキ

三　小爲替證書毀損汚斑シ點檢上支障アルトキ

第十三條　再度小爲替證書ヲ請求スルトキハ更ニ爲替料ヲ納ムヘシ

第十四條　小爲替證書ヲ失ヒ再度證書ヲ請求シタルトキハ當初派出ノ日ヨリ百二十日經過スルニ非サレハ之ヲ交付セス

●內外郵便爲替ノ爲替料ハ郵便切手ヲ納メシムルノ件

明治二十三年三月
遞信省告示第四十一號

內外郵便爲替（電信爲替及內地ト清國上海間ニ施行スル內國郵便爲替亦之ニ包含ス）ノ爲替料ハ來ル四月一日ヨリ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ左ノ區別ニ從ヒ爲替願書小爲替證書原符及再度爲替證書請求書等ニ貼附スヘシ

一內國通常爲替電信爲替願書小爲替證書原符再度爲替證書請求書ハ各其裏面

一外國爲替願書ハ表面（本邦文字印刷ノ部分）空白ノ位置

●電信爲替料改正

明治二十三年三月
遞信省告示第四十二號

電信爲替ノ爲替料左ノ通改正シ來ル四月一日ヨリ徵收ス

但本文施行ノ日ヨリ別ニ電信料ヲ納ムルニ及ハス

爲替金高	爲替料	爲替金高	爲替料
五圓迄	貳拾八錢	貳拾圓迄	參拾五錢
拾圓迄	參拾錢	參拾圓迄	四拾錢

●郵便爲替金及同貯金出納官吏身元保證金ニ關スル件

明治二十三年六月
勅令第百五號

朕郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ハ明治二十三年勅令第四號第一條ノ制限ニ依ラス身元保證金ヲ納ムヘシ

第二條　三等郵便電信局及三等郵便局ノ前條出納官吏ニハ明治二十三年勅令第四號第二條ノ但書ヲ適用セス

第三條　會計規則第百四條第百五條及明治二十三年勅令第四號第六條ニ依リ大藏大臣ノ爲スヘキ職務ハ遞信大臣之ヲ行フヘシ

●郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則

明治二十三年八月
遞信省令第十八號

本年勅令第百五號ニヨリ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏身元保證金取扱規則左ノ通相定ム

第一條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百三條ニ依リ現金ヲ以テ身元保證金ヲ納付セントスルトキハ其現金ヲ大藏省預金局預金取扱所ニ預ケ入其保管證

書ヲ得之ニ納付書ヲ添ヘ遞信大臣ニ納付スヘシ

第二條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ別ニ定ムル所ノ規程ニ依リ認可ヲ得タル後土地ノ所在地、價格及登記ヲ受ケントスル日限ヲ記シタル請求書二通ヲ製シ遞信大臣ニ差出スヘシ

第三條　遞信大臣ハ前條ノ申請ニヨリ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ郵便爲替貯金局長同分局長一等郵便電信局長一等郵便局長二等郵便電信局長二等郵便局長ニ命シ登記法第二十一條ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第四條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札附ノ儘之ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之ニ書入證書ヲ添ヘ遞信大臣ニ納付スヘシ

第五條　遞信大臣ハ前各條ニ依リ身元保證金ノ納付濟トナリタルトキハ其納付濟證ヲ製シ出納官吏ニ交付スヘシ但明治二十三年勅令第四號第二條但書ノ場合ニ於テ遞信大臣ハ納付ノ都度其假納付證ヲ交付シ完納ニ至テ納付濟證ト交換スヘシ

第六條　明治二十三年勅令第四號第二條但書ニ依リ身元保證金ヲ納付スルモノハ左ノ期限ニヨル

四期納付ノ分　第二期　九月末日マテ
第一期　六月末日マテ
第三期　十二月末日マテ　第四期　三月末日マテ
毎月納付ノ分
毎月末日マテ

第七條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏土地若クハ公債證書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テ明治二十三年勅令第四號第三條及第四條ノ計算ニ依リ身元保證金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其儘納付スルハ妨ケナシ

第八條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證書ヲ預ケ入レタル金庫ニ於テ其利札ヲ受取ルヘシ

第九條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ノ身元保證金ハ遞信大臣會計規則第百十條ノ責任解除ヲ認メテ之ヲ其出納官吏ニ返付スヘシ

第十條　前條ノ身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ保管證書又ハ書入證書ヲ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ遞信大臣其書入證書ヲ第三條ノ各局長ニ送付シ書入ノ解除ヲ爲スタメ登記法第二十三條ノ手續ヲ爲サシメ書入證書ヲ出納官吏ニ返

付セシムヘシ

前項ノ保管證書又ハ書入證書ハ身元保證金ノ納付濟證ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スルモノトス

第十一條　會計規則第百五條ニ依リ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テントスルトキハ遞信大臣其身元保證金（土地又ハ公債證書ハ公費ノ後）ヨリ損失金ノ辨償ニ充ツヘキ金額ヲ差引シ其旨出納官吏ニ通知スヘシ

第十二條　遞信大臣會計規則第百五條第二項ニ依リ土地又ハ公債證書ヲ公賣シタルトキハ同時ニ郵便爲替金及郵便貯金出納官吏ニ向テ公賣公告入費ノ辨償ヲ命スヘシ

第十三條　郵便爲替金及郵便貯金出納官吏會計規則第百二條第二項ニ依リ保證人ヲ立テ身元保證金ノ免除ヲ請求セントスルトキハ其情願書ヲ製シ遞信大臣ヘ差出スヘシ

第十四條　從前三等郵便電信局長及三等郵便局長ヨリ郵便爲替金及郵便貯金取扱ノ身元保證トシテ元遞信管理局長及一等郵便電信局長一等郵便局長ニ書入レアル土地又ハ公債證書ハ其書入ヲ變更スルノ必要ヲ生スル迄其儘三等郵便電信局及三等郵便局出納官吏ノ身元保證金トシテ取扱フヘシ

●琉球國首里郵便局郵便爲替及貯金事務開施

明治二十三年八月
遞信省告示第百六十八號

琉球國首里郵便局ヘ郵便爲替及貯金事務ヲ開施シ本年十月一日ヨリ其事務ヲ取扱ハシム

但當分ノ内小爲替振出ノ事務ヲ取扱ハシメス

●郵便貯金條例

明治二十三年八月
法律第六十三號

朕郵便貯金條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

郵便貯金條例

第一條　郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理スフモノトス

第二條　郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金ノ預入

第三條　郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス

第四條　郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條　郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ

郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利子ヲ付セス

郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

第六條　郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其幾分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條　郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但其公債證書ハ額面五拾圓又ハ五拾圓ヲ遞加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得郵便貯金預ケ人貯金全額ノ拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請求スヘシ

第八條　郵便貯金ノ預ケ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以内ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條　郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム

第十條　郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條　郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シ其書換又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年

間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限內ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條　郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證書ノ日附ヨリ一箇年以內ニ受取ルヘシ若シ此期限內ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條　郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除クノ外其名前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條　郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府其辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以內ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限內ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス

第十五條　郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十六條　郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證劵印稅ヲ免除ス

第十七條　本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附　則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第百五十七條乃至第二百二條及第二百四十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

●郵便貯金條例施行細則

明治二十三年十一月遞信省令第二十三號

郵便貯金條例施行細則左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

郵便貯金條例施行細則

第一款　貯金預入

第一條　郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局郵便局又ハ郵便貯金預所ニ到リ貯金預入申込書用紙ヲ申受ケ式ノ如ク記入シ記名調印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ

第二條　貯金預ケ人通帳ヲ受領シタルトキハ其通帳ニ氏名、住所、居所、身分、職業ヲ

記入シ且其印鑑ノ部ニ捺印ノ上預ケ金ヲ添ヘテ局所ノ主務者ニ差出シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ之ヲ所持スヘシ

第三條　貯金預ケ人再度以後ノ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ既ニ所持セル通帳ニ預ケ金ヲ添ヘテ貯金取扱局所ニ差出シ其記入ヲ受クヘシ

第四條　貯金取扱局所ノ主務者預ケ金及通帳ヲ受領シタルトキハ通帳ニ其金額及預年月日ヲ記載シ記名調印ノ上日附印ヲ押捺シテ預ケ金ノ領收ヲ證シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第五條　貯金預ケ人利子記入等ノ爲メ通帳ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ差出中預ケ金ヲナサントスルトキハ貯金取扱局所ニ通帳受取證書ヲ示シ自己ノ氏名ヲ陳述シ預ケ金ヲ差出シ其假領收證書ヲ領置スヘシ

前項ノ預ケ人通帳ノ返戻ヲ受ケタルトキハ之ニ假領收證書ヲ添ヘテ其預ケ金ヲ爲シタル局所ニ差出シ其預ケ金ノ轉記ヲ受クヘシ

貯金取扱局所ノ主務者前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ引揚ケ第四條ノ手續ニ準シ其預ケ金ヲ通帳ニ轉記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第六條　貯金預ケ人預ケ金記入濟ノ通帳ヲ受領シタルトキハ其場ニ於テ通帳記入ノ金額其他ニ相違遺漏等ナキヤヲ點檢シ若シ之アルトキハ直ニ訂正ヲ求ムヘシ

第七條　貯金ノ預入アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其原簿ニ登記シ貯金登記濟通知書ヲ預ケ人ニ送達スルモノトス

貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル日ヨリ三十日（島嶼又ハ交通不便ノ地ハ相當ノ時日ヲ加フ）以内ニ貯金登記濟通知書到達セサルトキハ其期日ノ翌日ヨリ又通知書到達セルモ其記載ノ金額年月日等相違アルトキハ到達ノ翌日ヨリ十日以内ニ其事故ヲ郵便爲替貯金局長ニ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第八條　貯金預ケ人ハ一ノ貯金取扱局所ニ於テ受領シタル通帳ヲ以テ他ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第九條　印形ヲ所持セサル者預ケ金ヲ爲サントスルトキハ引受人一名ヲ定ムヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ擔當人一名ヲ定ムヘシ

二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ但共同者中ノ一名ヲ加印者ト爲スコトヲ得

第十條　町村、學校、病院、社寺、會社、組合及共同ノ貯金ハ其町村、學校、病院、社寺、會社、組合若クハ總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト見做スヘシ

第十一條　印形ヲ所持セサル者ノ貯金ニ關シ調印ヲ要スル書類ニハ本人記名シ尙引受人記名調印スヘシ

町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ貯金ニハ町村、學校、病院、社寺、會社、組合等ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ尙擔當人記名調印スヘシ

共同者ノ貯金ニハ總代人記名調印シ加印者アルトキハ尙加印者連署スヘシ

第十二條　郵便爲替貯金局受持區內ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人郵便爲替貯金分局受持區內ニ移轉シ又ハ同分局受持區內ノ貯金取扱局所ニ於テ通帳ヲ受領シタル預ケ人郵便爲替貯金局若クハ他ノ分局受持區內ニ移轉シタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ所持ノ通帳ヲ差出シ其引換ヲ請求スルヿヲ得但本條ノ場合ニ於テ通帳ノ引換及交付ノ手續ハ第五款ノ各條ニ準據スルモノトス

第二款　貯金拂戻

第十三條　貯金預ケ人ハ何レノ貯金取扱局所ニ於テモ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但郵便貯金預所ニ於テハ拂戻金ノ拂渡ヲ取扱ハス

第十四條　貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ設ケアル拂戻請求書用紙ヲ申受ケ之ニ金額及拂戻金ヲ受取ラント欲スル局名其他式ノ如ク記入シ記名調印ノ上通帳ヲ添ヘ之ヲ其局所ニ差出シ通帳受取證書ヲ受領スヘシ

第十五條　貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其請求書到達ノ日ヨリ五日以內ニ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ノ居所ニ發送スヘシ

若シ相當ノ時限內ニ拂戻證書到達セサルカ又ハ到達セルモ金額其他ニ相違アルトキハ拂戻請求人ニ於テ郵便爲替貯金局長ニ宛テ其事故ヲ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區內ノ貯金取扱局所ヨリ通帳ヲ受領シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第十六條　貯金拂戻請求人拂戻證書ヲ受領シタルトキハ其證書ニ記名調印シ通帳受取證書ト共ニ之ヲ拂渡局ニ差出シ拂戻金ヲ受領シ且通帳ノ返戻ヲ受クヘシ但貯金全額拂ノ通帳ハ返付セサルモノトス

第十七條　代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ラントスル者ハ拂戻證書ノ裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ拂戻證書ニ代人屆書ヲ添ヘテ之ヲ拂渡局ニ差出サシメ其代人ハ其拂戻證書ニ代人ノ肩書ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條　貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其局所ニ預入ヲ爲シタル預ケ金高ノ內金十圓迄又再度通帳ヲ所持スル者其再度通帳ヲ受領シタカ局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其繰越金高ノ內金十圓迄ヲ限リ即時拂ノ取扱ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ請求ヲ爲ストキハ一圓以上ノ預ケ

金ヲ殘シ置クヘキモノトス

前項即時拂ノ請求ハ一箇月一回ヲ超ルコトヲ得ス

第十九條　貯金即時拂ノ請求ヲ受ケタル局所ニ於テ其請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請求ヲ拒ムコトアルヘシ

第二十條　即時拂ヲ要スル貯金ノ拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ之ヲ調製シ其請求人ノ居所ニ送達スルモノトス

第二十一條　郵便爲替貯金局及同分局所在地ノ貯金取扱局所ニ於テハ貯金即時拂ノ取扱ヲ爲サヽルモノトス

第三款　貯金預ケ人異動

第二十二條　貯金預ケ人氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ屆出ヘシ但改印ニ係ル屆書ニハ其印鑑ヲ添フヘシ

引受人、擔當人、加印者アル預ケ人前項ノ變更ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ニ異動ヲ生シ若シハ此等ノ氏名、住所、居所、印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其引受人、擔當人、加印者連署ヲ以テ前項同樣屆出ヘシ但引受人、擔當人、加印者ノ變更ノ場合ニ於テハ前任者モ亦屆書ニ連署スヘシ若シ連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十三條　共同者ニ於テ總代人ノ變更ヲ要スルトキハ前任後任ノ總代人及加印者連署ヲ以テ後任總代人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ屆出ヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ保證人ヲ立テ其事實ヲ證明スヘシ

第二十四條　貯金預ケ人第二十二條及第二十三條ノ屆書ヲ差出シタルトキハ同時ニ通帳ノ氏名、住所、居所、印鑑等ノ諸項ニ就キテ其變更ノ廉ヲ訂正スヘシ

第四款　貯金通帳利子記入

第二十五條　貯金預ケ人利子記入ノ爲メ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ通帳ヲ差出ストキハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ通帳利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通帳差出人ニ其通達書ヲ送達シ通帳ハ其經由局所ニ返付スヘシ

通帳差出人前項ノ通達書ヲ受ケタルトキハ曩ニ領置セル通帳受取證書ヲ經由局所ニ返納シ利子記入濟通帳ヲ受領スヘシ

第二十六條　貯金通帳差出人利子記入濟通帳ヲ前條ノ經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ通帳ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第五款　貯金再度通帳

第二十七條　貯金預ケ人所持ノ通帳餘白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ其通帳ヲ差出シ再度通帳ノ交付

ヲ請求スヘシ但請求書及通帳ハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

通帳亡失ノ爲メ再度通帳ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但再度通帳ノ交付ヲ請求シタル後前ノ通帳ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第二十八條　郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ再度通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通帳發行通知書ヲ請求書經由ノ局所ニ廻送シ其告知書ヲ請求人ニ送達スルモノトス

第二十九條　貯金再度通帳ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ該告知書及通帳受取證書ヲ請求書經由ノ局所ニ差出シ新規通帳ノ交付ヲ受クヘシ但請求人新規通帳ヲ請求書經由ノ局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ請求書ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第三十條　貯金再度通帳發行通知書ヲ受ケタル局所ハ請求人ノ求メニ從ヒ該通知書ニ依リ再度通帳ヲ調製シ前條ノ告知書及通帳受取證書ト引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス

第三十一條　貯金通帳毀損汚斑又ハ亡失ノ爲メ再度通帳ヲ交付スル場合ニ於テハ通帳一冊ニ付手數料金十錢ヲ徵收スヘシ

手數料ハ再度通帳請求書ニ郵便切手ヲ貼附シテ前納スヘシ

第六款　貯金相續

第三十二條　貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ讓與セントスルトキハ預ケ人相續人連署ノ書面ヲ以テ通帳並相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ名前書換ヲ請求スヘシ

第三十三條　貯金預ケ人死亡シタルトキハ其家督相續人ニ於テ相續人タルコトヲ證明セル書面ヲ以テ通帳ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ貯金ノ拂戻ヲ請求スルカ又ハ名前書換ヲ請求スヘシ但名前書換ヲ請求スルトキハ同時ニ相續人ノ印鑑ヲ差出スヘシ

第三十四條　第三十二條及第三十三條ノ名前書換ヲ要スル場合ニ於テ相續人既ニ自己ノ貯金通帳ヲ所持セルトキハ共ニ其通帳ヲ差出シ其相續シタル貯金ノ轉記ヲ請求スヘシ

第三十五條　前三條ノ場合ニ於テ通帳ヲ貯金取扱局所ニ差出シタルトキハ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第三十六條　家督相續人ナキ貯金預ケ人死亡シタルトキハ其貯金ヲ相續シタル者ニ於テ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ第三十三條ノ手續ニ由リ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第三十七條　郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ貯金ノ讓與又ハ相續ニ關スル請求書ヲ受ケタルトキハ正當相續人タルコトヲ認ムル爲メ其請求人ヲシテ市町村長又ハ區長ノ奥書證明ヲ要メシメ若クハ其他ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七款　貯金拂戻證書ノ亡失、毀損汚斑

第三十八條　貯金拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ拂戻請求人ニ於テ貯金拂渡局ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ證書ヲ差出シ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スヘシ

第三十九條　貯金拂戻證書亡失ノ爲メ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ拂戻請求人ニ於テ證人ヲ立テ其事實ヲ證明シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但拂渡認可證書ヲ請求シタル後前ノ證書ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第八款　公債證書ノ購入、保管、下渡

第四十條　貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書トシ總テ無記名トス

第四十一條　公債證書ハ時價ニ依リ購入スルモノトス

時價トハ東京ニ於ケル購入當日ノ賣買價格ニ購入口錢ヲ加ヘタルモノトス

第四十二條　公債證書ノ購入ヲ爲ストキハ左ノ手數料ヲ徵收スヘシ

公債證書金額五十圓マテ　金二十錢

同　百圓マテ　金三十錢

以上五十圓ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ加フ

第四十三條　公債證書ノ購入ヲ請求スル者ハ其請求書ニ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ通帳受取證書ヲ領置スヘシ

第四十四條　郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書購入請求書ヲ領收シタルトキハ其到達ノ日ヨリ七日以内ニ公債證書ヲ購入スルモノトス

第四十五條　公債證書購入ノ代金及手數料ハ郵便爲替貯金局ニ於テ請求人ノ貯金ヨリ拂出シ且其金額ヲ通帳ニ記入スヘシ

第四十六條　郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書ヲ購入シタルトキハ之ヲ公債證書保管原簿ニ登記シ其保管證書及通帳ヲ請求書經由ノ局所ヲ經テ請求人ニ交付スヘシ

第四十七條　保管證書ニハ公債證書ノ記號番號金額購入代價及購入年月日ヲ記載スルモノトス

保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ郵便爲替貯金局ニ於テ之ヲ受取リ其預ケ人ノ貯金ニ受入ルヘシ

第四十八條　保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルモノハ其請求書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

下渡請求書ニハ其請求人ニ於テ公債證書ヲ受取ラント欲スル貯金取扱局ヲ指定ス

ヘシ但郵便貯金預所ニ於テハ公債證書ノ渡方ヲ取扱ハス

第四十九條　郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書下渡請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局ニ公債證書ヲ廻付シ且請求人ニ下渡證書ヲ送達スヘシ

請求人前項ノ下渡證書ヲ受ケタルトキハ其證書受領ノ部ニ記名調印シ前ニ受領シタル受取證書ト共ニ下渡局ニ差出シ之ト引換ヘ公債證書ヲ受領スヘシ

第九款　雜則

第五十條　貯金預ケ人貯金事務ニ關シ郵便爲替貯金局又ハ同分局又ハ貯金取扱局所ニ差出ス書面ニハ所持ノ通帳ノ記號番號ヲ記載シ又之ヲ郵送スルトキハ其封皮ノ表面ニ貯金事務ト明記スヘシ

●郵便貯金利子割合　明治二十三年十一月　勅令第二百七十八號

朕郵便貯金利子割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金ノ利子ハ來明治二十四年一月ヨリ一箇年元金百分ノ四分貳厘ト定ム

但本年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金額千圓ヲ超過シタルモノハ一箇年元金百分ノ三分トス

●郵便貯金預所取扱人採用規程　明治二十一年八月　遞信省訓令第八號

郵便貯金預所取扱人採用規程左ノ通相定候條該採用方ハ右ニ依リ執行スヘシ

郵便貯金預所取扱人採用規程

第一條　郵便貯金預所取扱人ノ採用ヲ要スルトキ遞信管理局長ハ左ノ各款ヲ具備スル者ニ就キ適當ト認メタル者ヲ採用スヘシ

第一款　其郵便貯金預所所在地ニ在住スル者

第二款　實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者

第三款　日常ノ算筆ニ通スル者

第四款　別ニ定ムル郵便貯金預所取扱人服務規約ヲ遵奉スル者

第五款　年齡滿二十年以上ノ男子

第二條　誠實ニ職務ヲ奉シタル郵便貯金預所取扱人老年又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セントキ其嗣子又ハ相續人タル男子年齡滿十六年以上ニ及フモノハ第一條第五款ノ制限ニ拘ハラス特ニ採用スルコトヲ得

第三條　非戸主ニシテ其戸主實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者保證スルニ於テハ其本人ノ資產第一條第二款ニ適合セサルモ特ニ之ヲ採用スルコトヲ得

第四條　遞信管理局長ハ時宜ニ依リ郵便貯金預所取扱人ノ選出ヲ郡區長ニ囑託スルコトヲ得

●郵便貯金預所取扱人採用規程中更正

明治二十二年十月遞信省訓令第三號

一等郵便電信局
明治二十一年一月郵便貯金預所取扱人採用規程中左ノ通更正ス、第一條第四條第五條第六條

第五條　遞信管理局長ニ於テ郵便貯金預所取扱人ヲ任命スルトキハ辭令書ヲ交付シ受書及身元引受證書書式一號本人非戸主ナルトキハ戸主ノ保證書書式二號ヲ差出サシメ之ヲ遞信大臣ニ報告シ且採用ノ旨ヲ其地方長官及郡區長ニ通知スヘシ其免職ノトキ亦同シ

第六條　遞信管理局長ニ於テ郵便貯金預所取扱人ヲ採用スルトキハ別ニ定ムル規程ノ保證品ヲ徵收スヘシ

（一號書式）

○印紙

身元引受證書

何國何郡區何町村何某郵便貯金預所取扱人ニ御採用ニ付身元引受人ニ相立候ニ付テハ郵便貯金預所取扱人規則ニ從ヒ誠實ニ其責任ヲ盡シ可申候仍テ證書差上候也

年月日

何遞信管理局長殿

道廳府縣何國何郡區何町村何番地住
族籍
姓名印

（二號書式）

○印紙

保證書

今般私長次男何某郵便貯金預所取扱人拜命候ニ付テハ本人奉務中御局ニ對シ萬一上納金其他官物等ニ付辨償可仕廉相生シ候節ハ本人ハ勿論私ノ資產ヲモ盡シ辨償可仕候仍テ證書差上候也

道廳府縣何國何郡區何町村何番地住
戸主
族籍職業
姓名印

年月日

何遞信管理局長殿

●清國上海、朝鮮國釜山、元山、津、仁川ニ設立スル本邦郵便電信局郵便貯金預ケ人貯金ニ關スル書類差出方

明治二十年十二月遞信省告示第二百三十五號

清國上海朝鮮國釜山元山津仁川ニ設立スル本邦郵便電信局郵便局ノ貯金預ケ人ニシ

テ明治二十一年一月以後貯金ニ關シ差出スヘキ書類ハ申告書ヲ除クノ外總テ赤間關爲替貯金局出張所ヲ經由スヘシ

◎第二十四類

○船舶

●危害品船積法則

明治六年八月
布告第二百九十二號

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

一火藥硝石硫黄之類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液並腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致シ候時ハ其品名ヲ表包之外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常荷物ト詐リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内之罰金ニ處スヘキ事

一尋常之物品トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視査スルノ權利可有之事

但爲視査發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然共其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社之倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全之場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可屆出事

但安全之場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全之場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保証人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ着港ノ上直チニ其次第書及荷主之姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可屆出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主之損失ヲ辨償スルニ不及事

一船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常之荷物トシテ船積シ或ハ船積セントル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴出サル時ハ金二百圓以内之罰ニ處スヘキ事

●合衆國商品船積ノ儀心得方

明治七年八月
内務省布達甲第二十號

内國人民ヨリ海外輸出品ノ内米國桑港ニ於テ陸揚ノ節彼ノ地稅則中船積ノ條不心得ヨリ間々不都合有之哉ノ趣ヲ以テ同港在留領事官ヨリ差越候別紙合衆國商品船積心得書相達候條管下一般ヘ熟知候樣可取計此旨布達候事

（別紙）

合衆國ヘ商品船積ノ儀ニ付日本人民ヘノ報告

合衆國ヘ商品ヲ船積スルニハ其品柄其量目幷ニ横濱或ハ其他船積ヲ爲ス港ニ於テ其物品ノ價ヲ記シタル船積證書ヲ爲スコト專用ナリ又之ニ加フルニ荷造ノ入費荷包ミ物ノ價輸出ノ時拂ヒタル稅幷ニ船中積込入費等ノ雜費ヲ記載スヘシ

積主ハ此船積證書ヲ三通ニ記載シ合衆國領事ノ許ヘ持行キ領事ノ前ニ於テ此證書通ニ無相違旨ヲ誓約スヘシ但シ右ハ諸雜費ヲ合セ物品ノ價貫高百弗以上ニ至ル時ノ心得ニシ若シ其價百弗ニ至ラサルトキハ右ノ證書ヲ領事ノ前ニ於テ誓約スルニ及ハサル事

右船積證書ノ無相違旨ヲ誓約スル上ハ合衆國領事ハ其一通ニ領事ノ證書ヲ添ヘ積主ヘ渡シ殘二通ノ内又其一通ヲ商品送先港ノ收稅官ヘ送致シ殘リ一通ヲ其領事官ニ留置ナリ

積主ハ領事ヨリ受取リタル保證濟ノ證書ヲ合衆國ニ於テ商品ヲ受取ヘキ者ヘ陸揚ノ時此證書ニ引合セ稅ヲ拂フ爲メ商品ト同船ニテ送致スヘキ事

方今（千八百七十四年三月）合衆國ニ於テ日本品物上ニ課スル稅左ノ如シ

一裝飾土器　從價五割
一粹白土器　同　四割
一木製物　同　三割半
一紙　同　一割ヨリ三割半ニ至ル
一珍奇物

右ハ其製作ノ物質ニ因テ稅ノ差アリト雖トモ尋常ハ從價三割半位ナリ

一玩物　從價五割
一青銅製造物　同　一割ヨリ三割半ニ至ル
一吸煙用物品　同　七割半
一絹端物　同　六割
一絹縫紗端物　同　五割
一絹縫物　同　四割
一水晶細工物　同　四割
一革製造物　同　一割ヨリ三割半ニ至ル
一醬油　同　三割半
一茶　無稅

一抹漆器

從價ト云フハ船積セル港ニ於テ其物品ノ實價ヲ云フナリ合衆國稅則中ニ卷煙草ハ一俵每ニ三千本ヨリ少ナキ時ハ之ヲ陸揚セス又箱詰ハ一箱每ニ五百本以上ヲ積マサルヲ要ス然ルニ右規則ニ背キ若シ右俵中ニ三千本ヨリ小量ヲ詰ルトキハ右稅則ヲ破リシ廉ヲ以テ稅關ノ官員之ヲ沒收ス又箱詰トテモ五百本以上ヲ積トキハ右同樣沒收セラルヘシ

製造シタル煙草ヲ卸賣ノ爲メ船積スルニハ十磅以上ヲ目方セサル俵詰ニ爲スヘシ但卸賣ニハ五本掛ヲ最上トス小賣ニテ小量ヲ賣與スル爲メニ船積スルニハ四半磅半磅或ハ一磅目掛ノ俵詰ト爲シ但シ此大サノ俵ニ用ユル內國稅印ヲ付スルニ便宜ト爲スヘキナリ

上ノ報告ヲ了知シ船積ヲ爲スニ於テハ合衆國ノ稅則行ハルヽ間ハ陸揚ノ時困難或ハ荷物ノ損失等起ル事ナシ

●內外國人運輸ノ貨物引留方手續

明治八年十二月　布告第二百一號

各開港場ニ於テ內外國人運輸ノ貨物陸揚船積ノ際運賃拂ヒ方相滯リ候節貨物引留方手順別紙ノ通相定メ候條此旨布告候事

（別紙）

第一條　凡ソ各開港場ニ於テ內外國人運輸ノ貨物陸揚船積ノ際運賃拂ヒ方相滯リニ付貨物引留方要求候者ハ其事由ヲ書面ニ記載シ稅關長若クハ稅關ヘ宛差出スヘシ則荷物箇數記號番號燒印及ヒ荷主輸入人或ハ輸出人乃至引受人ノ名前右荷物運輸ノ船名（若シ又陸運ノ時ハ其荷車ノ種類并ニ運輸ノ道筋）及ヒ仕出シ場或ハ仕向場或ハ荷物到着ノ月日及ヒ賃錢其他要求ノ金高等ヲ詳記シ之ニ願人又ハ相當ノ代人記名シテ差出スヘシ

但內國人ナルトキハ其願書ニ實印ヲ捺シ開港場府縣廳ノ奧印ヲ受ケテ差出スヘシ其願人外國人ナルトキハ自國ノ領事ノ目前ニ於テ書面ノ趣相違無之旨ヲ誓詞シタルモノヲ出サシムヘシ其証書式左ノ如シ

別紙書面中ノ事柄ハ申立ノ通リ聊相違ノ筋無之就テハ右書面ヲ以願立候金高ハ畢竟拙者方ヘ受取ルヘキ筈ノ者ニ候間別紙書面中ノ荷物ハ稅關官員方ノ手ヘ相渡シ候節定法ノ通引留可相成筋ニ有之候仍而如件

何々港　　何國

明治何年　　姓名

千八百何十何年月日　拙者ノ目前ニ於テ誓言（或ハ証言）シ畢

何國領事姓名

（日本人ハ誓言ノ式無シ故ニ實印ヲ調シタル願書ニテ足ル）

第二條　稅關官員ハ都テ右願書類ヘ番號ヲ附ケテ之ヲ貯置キ且此一事ノ爲メニ帳簿ヲ備置キ詳細之ニ登錄スヘシ尤以呂波分ケノ見出シヲ附ケ荷主引受人輸入人或ハ輸出人ノ姓名並ニ其船舶ノ名ヲ記シ置ヘシ

第三條　稅關長ハ願人ヨリ差出タル書面ヲ落手スルノ後三十日ノ間ハ其書面ニ記載セル荷物ヲ抑留シテ之ヲ引渡サヽル事ヲ得ヘシ但シ願人荷主引受人等一同協議ノ上渡シ方ヲ請フ歟若クハ此輩ヨリ申出タル訴訟ノ是非ヲ判決スル相當ノ裁判所ヨリ其斷案ヲ申越セルトキハ此例ニ非ス尤此訴訟ハ願人ノ方ヨリ稅關ヘ荷物抑留シテ願出ル日ヨリ少クモ七日ノ間ニ其地ノ裁判所ヘ可訴出者トス裁判所ハ其訴訟ヲ受理スル歟否ハ右三十日ノ間ニ判然スヘケレハ裁判所ニテ右訴訟ヲ受理スルトキハ夫レヨリ以後ハ右訴訟裁斷ノ日迄荷物ハ稅關ヘ抑留シ置クヘシ

第四條　抑留中荷物ノ庫租及其他ノ雜費ハ荷物引取人ヨリ差出ヘシ

第五條　稅關長吏ハ訴訟ニ係ル双方ノ議論ヲ裁斷スルノ權アリト雖トモ其他ノ事故ニ由リ荷物ヲ抑留スル事ヲ願出ル付荷物ヲ抑留スルノ權アリト雖トモ其他ノ事故ニ由リ荷物ヲ抑留スル事ヲ願出ル稅關ニ於テハ之ヲ取上クヘカラス

●西洋形船ヘ大小砲設備方　明治八年五月布告第九十八號

海軍官船ヲ除クノ外西洋形船ヘ賊難防禦ノ爲メ大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告候事

第一條　海軍官船ヲ除クノ外諸省使府縣所轄ノ西洋形官船並ニ人民所持ノ西洋形商船ヘ大砲口徑四寸以内二門小銃三十挺設備スル事苦シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖トモ若シ増置セントスルトキハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條　大砲一門ニ彈藥五十發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユヘカラス

第三條　船内ヘ銃砲ヲ設備スル時省使ハ正院ヘ上請シ府縣ハ内務省ヘ申出許可ヲ受クヘシ

但人民所持船ノ分ハ其管轄廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ其旨内務省ヘ届出ヘシ

第四條　銃砲ノ設備ヲ許可セシトキハ其旨海軍省ヘ通知スル事トス尤省使ノ分ハ正院ヨリシ府縣並ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ

第五條　諸省使府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セン分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ

但銃砲彈藥等買入ル、節ハ明治五年正月第二十八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

●外國船乘込規則　明治九年三月布告第三十號

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノ爲左ノ通規則相定候條此旨布告候事

外國船乘込規則

第一條　外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル届書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條　乘船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條　乘船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第四條　乘船證書ハ毎人親ラ出廳シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條　乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸（例ハハ横濱港ヨリ長崎港ニ到ル者其船舶神戸港ニ卸碇シタル時用便ノタメ暫時上陸スルノ類）スル者ハ其地臨檢警察官吏ニ其證書ノ檢閲ヲ受クヘシ

●外國船乘込規則第三條中手數料改正　明治九年五月布告第六十一號

本年三月第三十號布告外國船乘込規則第三條中手數料金二十五錢ヲ金十錢ト改正候條此旨布告候事

第六條　乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條　乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

第八條　開港場アル地方廳ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ屆書ヲ差出スモノアル時ハ第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤヲ檢閲シ別紙雛形ノ證書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手數料ヲ領收スヘシ

第九條　右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨檢セシメ內國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々檢閲シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條　警察官吏乘船證書ヲ臨檢シ着港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

（証書式略ス）

○明治十四年九月布告第四十三號ヲ以テ內務省トアルヲ農商務省ト改正ス

●（參照）明治十八年十二月遞信省設置ニ付本條規則ハ全省主管トナル

●內國郵船ニ乘組旅行者姓名記載方

明治九年三月布告第三十一號

內國郵船ニ乘組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎各人ノ姓名住所幷何地迄趣ク旨ヲ詳細登記シ置何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之樣可致此旨布告候事

●西洋形船水先免狀規則

明治十一年十二月布告第三拾七號

明治九年（十二）第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

（別冊）

西洋形船水先免狀規則

第一條　明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條　水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ內務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ選ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條　免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一　東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二　和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三　和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四　長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊豆島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五　津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條　各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條　水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷証書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ内務省ヘ差出シ置キ或ハ試驗開場ノ時ニ於テハ直ニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條　水先人タル者ハ年齡廿二歲ニ滿チ少クモ一箇年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六箇年間航海ニ從事シ其中一箇年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ滿足セシムルヿヲ要スヘシ

第七條　受驗人試驗ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ内務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條　免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ內務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セントスルトキハ都テ內務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條　免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ內務省ヘ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條　水先人ハ始メテ其免狀ヲ願出ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手數料ヲ上納スヘシ

第十一條　水先人ノ試驗ヲナス時ハ定日ヨリ少クトモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限及ヒ試驗ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條　試驗出願人ノ履歷証書ヲ以テ充分滿足ノモノト爲ル時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿登簿シ順次ニ從テ之カ試驗ヲナスヘシ

第十三條　此規則ニ於テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限リ日本帝國內何レノ海岸ト雖トモ上陸シ且其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條　第三條ニ規定セル水先區內ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルトキ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサントヲ申入レ又ハ其爲メ信號ヲナストキハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許

●西洋形船水先免狀規則第十九條中改正　明治十三年十月布告第三十九號

明治十一年十二月第三十七號布告西洋形船水先免狀規則第十九條第四項左ノ通改正候事、水先此旨布告候事、船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フルヘキ白十五分一個ヲ揭ケ且十方ヨリ見ユヘキ檣頭ニ於テ周回諸燈火ヲ掲クスルヲ超サル間

水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五拾圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條　水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條　二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナストキハ最初現ニ乘船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條　免許水先人水路嚮導專用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ內務省ニ願出ツヘシ內務省ハ檢査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同樣其效一箇年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ

第十八條　各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域內ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條　各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一　水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二　船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三　免許水先船ニ免許水先人ノ乘込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日沒マテ水先旗ヲ飜揚スヘシ

歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ、水先船其營業ニ於テ水路標導ニ從事セサル時ハ他船ト同樣ノ燈火ヲ掲クヘシ

但水先旗ハ明治十年一月甲第壹號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四　免許水先人ノ乘込ミタル免許水先船ハ夜間其停留場ニ碇泊中モ亦運用中ニ於ケルモ地平ノ各所ヨリ認メ易キ桅上ニ於テ日沒ヨリ日出マテ透明ノ白燈ヲ掲ケ又十五分時毎ニ閃光ヲ發スヘシ而シテ總テ其他ノ時間ニ於テハ風帆船同樣尋常ノ舷燈ヲ掲クヘシ

第二十條　日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一　前檣ニ於テ其船ノ船首旗英語「ジヤック」又ハ國旗ヲ掲揚スルコト

第二　萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ掲示スルコト

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一　十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スル事

第二　須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スルコト

第二十一條　各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツヽ交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閲覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒

ム時ハ內務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十二條　此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ內務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

第二十三條　內務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ乱醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

水先料一覽表

第一　東京灣ノ部

發地	着地	風帆船及ヒ滊船水先料	標註
海上ヨリ	横濱港マテ	金三圓	水脚一「フート」ニ付
横濱港ヨリ	海上マテ	金三圓	右同斷ニ付
海上ヨリ	品川碇泊所マテ	金四圓	右同斷ニ付
品川碇泊所ヨリ	海上マテ	金四圓	右同斷ニ付
横濱港ヨリ	品川碇泊所マテ	金二十五圓	一航海ニ付

品川碇泊所ヨリ	横濱港マテ	金二十五圓	右同斷ニ付	
横濱港ヨリ	横須賀港マテ	金二十五圓	右同斷ニ付	
横須賀港ヨリ	横濱港迄	金二十五圓	右同斷ニ付	
品川碇泊所ヨリ	品川碇泊所迄	金四十圓	右同斷ニ付	
品川碇泊所ヨリ	横須賀港迄	金四十圓	右同斷ニ付	

第二　紀伊海峽及和泉灘ノ部

發地	着地	風帆船及ヒ涼船水先料	標註
海上ヨリ	兵庫神戸或ハ大阪碇泊所マテ	金三圓	水脚一「フート」ニ付
兵庫神戸或ハ大阪碇泊所ヨリ	海上マテ	金三圓	右同斷ニ付
兵庫或ハ神戸港ヨリ	大坂碇泊所マテ	金一圓五十錢	右同斷ニ付
大阪碇泊所ヨリ	兵庫或ハ神戸港迄	金一圓五十錢	右同斷ニ付
大阪碇泊所ヨリ	神戸ヲ經テ海上迄	金四圓	右同斷ニ付

第三　長崎港ノ部

發地	着地	風帆船及ヒ涼船水先料	標註
海上ヨリ	長崎港マテ	金貳圓	水脚一「フート」ニ付

長崎港ヨリ	海上マテ	金壹圓五拾錢	右同斷ニ付

第四　津輕海峽ノ部

發地	着地	風帆船水先料	涼船水先料	標註
海上ヨリ	函館或ハ青森縣船場マテ	金貳圓五拾錢	金二圓	水脚一「フート」ニ付
函館或ハ青森縣船場ヨリ	海上マテ	金二圓五拾錢	金二圓	右同斷ニ付

第五　沿海ノ部

發地	着地	噸數	風帆船水先料	標註
東京灣ヨリ兵庫神戸或ハ大阪迄又兵庫神戸或ハ大阪ヨリ東京灣迄		三百噸以下三百噸迄	金八拾圓	
		三百噸以上五百五十噸迄	金百圓	一航海ニ付
		五百五十噸以上七百五十噸迄	金百二拾圓	
兵庫神戸或ハ大阪ヨリ下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ兵庫神戸或ハ大阪迄		七百五十噸以上千噸迄	金百三十五圓	
		千噸以上	金百五十圓	
東京灣ヨリ直航下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ直航東京灣		三百噸以下三百噸迄	金百二十圓	
		三百噸以上五百五十噸迄	金百五十圓	
		五百五十噸以上七百五十噸迄	金百八十圓	

マテ			
東京灣ヨリ神戸或ハ大阪ヲ經テ下ノ關或ハ長崎迄又下ノ關或ハ長崎ヨリ神戸或ハ大阪ヲ經テ東京灣迄	七百五十噸以上千噸迄	金二百圓	
	千噸以上	金二百二十五圓	
	三百噸以下三百噸迄	金百四十圓	一航海ニ付
	三百噸以上五百五十噸迄	金百七十五圓	
	五百五十噸以上七百五十噸マテ	金二百十圓	
	七百五十噸以上千噸迄	金二百三十五圓	
	千噸以上	金二百六十圓	

發地	着地	汽船水先料	標註
東京灣ヨリ	兵庫神戸或ハ大阪迄	金六圓	水脚一「フート」ニ付
兵庫神戸或ハ大阪ヨリ	東京灣迄	金六圓	右同斷ニ付
東京灣ヨリ	直航長崎港迄	金九圓	右同斷ニ付
長崎港ヨリ	直航東京灣迄	金九圓	右同斷ニ付
東京灣ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ長崎港マテ	金十二圓	右同斷ニ付
長崎港ヨリ	神戸或ハ兵庫ヲ經テ東京灣迄	金十二圓	右同斷ニ付
兵庫神戸或ハ大阪ヨリ	下ノ關海峽ノ外部或ハ長崎港迄	金六圓	右同斷ニ付

下ノ關海峽ノ外部或ハ長崎港ヨリ	兵庫神戸或ハ大阪迄	金六圓	右同斷ニ付

第一　此表中水脚ト稱スルモノハ本船ノ最モ深キ水脚ヲ云フ

第二　水先人ノ嚮導ニ因リ繫泊スル船舶ハ汽船帆船ニ係ラス三百噸以下ハ拾圓三百噸以上ハ水脚一「フート」ニ付金壹圓ノ割ヲ以テ繫泊案内料ヲ拂ハシム

第三　此表中ニ定メタル沿海水先料ハ水先人ノ歸鄉旅費ヲ包含スルモノトス

第四　此表中ニ記載セサル沿海水先料ハ船長ト水先人ノ示談ヲ以テ取極ムヘシ

●西洋形船海員雇入雇止規則

明治十二年二月布告第九號

西洋形商船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定メ來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

（別冊）

西洋形商船海員雇入雇止規則

第一條　西洋形商船（蒸汽船ハ十噸以上風帆船ハ二十噸以上）ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條欵ニ準據スヘシ

第二條　雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ内務省ヨリ發スル海員雇入證書用紙

●明治十三年四月布告第十號ヲ以テ商船ノ文字ヲ削リ西洋形船ト改ム

●明治十四年九月布告第四十三號ヲ以テ内務省トアルヲ農商務省ト改正（參照）

●明治十八年十二月遞信省設置ニ付本規則ハ全省主管トナル

ヲ以テ其定約書ヲ作リ雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ
但定約書ハ正副二通ニ作リ其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

第三條　內海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ケ月以內ト定ム然レトモ外國航船ニ於テハ六ケ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條　雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ內務省ヨリ發スル海員雇止證書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作リ記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ

雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀所持スルモノハ浦役人ノ檢査ニ供シ且其檢査證書ヲ申受ヘシ（明治十六年第四十五號布告ヲ以テ本項以下三項ヲ追加セラル）

雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手數料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツヽ浦役場ニ納ムヘシ

雇入定約書及ヒ雇止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ二名以上ノ保證人ト連署シテ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ

第五條　雇止ハ雇入地ニ限リ行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸着スル迄ハ雇入期限內ト見做スコトヲ得ヘシ
但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限ニアラス

第六條　左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限內トニ拘ラス雇者ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

一疾病又ハ體瘦弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者
一本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル者
但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地ヘ歸還セシムヘシ
一第十條ニ揭クル違約一ケ月內三回以上ニ至ル者
一第十一條ヲ犯ス者

第七條　又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限內トニ拘ラス被雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

一苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時
一飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時
但右ノ場合ニ於テハ雇入地ヘ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條　外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ內務省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書ヲ作リ記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受

クヘシ

但定約書ハ正副二通ニ作リ其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條　新ニ海員トナル者及此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入スヘカラス

第十條　船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者（第十一條ノ脫船者ニアラス）本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條　船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ刼ス者脫船スル者（雇入期限內ニ逃亡スル者ヲ云フ）ハ其事情ニ因リ百日以內ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ於テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條　海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以內ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條　此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五十圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ

●海上衝突豫防規則

明治十三年七月布告第三十五號

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來ル九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

（別冊）

海上衝突豫防規則

總則

第一條　此規則中蒸氣船ト雖トモ帆ニテ走リ蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用フル時ハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條　各船日沒ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラス第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ揭クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス

第三條　蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈ヲ揭クヘシ

(甲)前檣又ハ其前面ニ於テ船体上二丈ヨリ低カラサル所ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ル時ハ船体上其船幅ヨリ低ラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鉞盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ヘ十方位ツヽ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ樣ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五厘(海里ニテ算ス以下之ニ倣ヘ)ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(乙)右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鉞盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ樣ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鉞盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ樣ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丁)右綠紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出テタル扉風樣ノ隔板ヲ其燈火ノ內側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル樣ニナスヘシ

第四條　蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縱ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ヘ掲クヘシ

第五條　帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル時及ヒ事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黑球三個ヲ前檣ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ

右黑球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ避クル能ハサル船ノ信號ト看認ムヘシ

右ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖モ運行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ

第六條　帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カルヽトノ差別ナク白燈ヲ除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラス

第七條　小形船ニ於テ天氣ノ模樣ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キ時ハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ樣甲板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄

リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行ク時ハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ他船ヨリ最モ見ヘ易キ樣各船ニ標スヘシ但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル樣注意スヘシ此綠紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘシ

第八條　帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船体上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ揭クヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ亮明ノ光ヲ發シ少クモ周回一里ノ距離ヨリ見ユル樣ニ爲スヘシ

第九條　水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ揭ケス唯檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ揭ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同樣ノ燈火ヲ揭クヘシ

第十條　甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用フル舷燈ヲ揭クルニ及ハス然レトモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行ク時ハ衝突ヲ防グニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル樣注意スヘシ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮明ナル白燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラス

第十一條　他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

霧中信號

第十二條　蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且霧中號角及ヒ號鍾ヲ備フヘク帆前船ハ同樣ノ號角及號鐘ヲ備フヘシ但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラス

霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本上ニ記載セル信號ヲ左ノ如ク用ヘシ

(甲)蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

(乙)帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受クタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ

(丙)帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以

テ號鐘ヲ鳴スヘシ

第十三條　霧中速力

帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ

航法

第十四條　二艘ノ帆前船互ニ近寄リテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

(甲)一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(乙)左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

(丙)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同カラサル時ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

(丁)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキ時ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

(戊)船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條　二艘ノ蒸氣船正シク眞向又ハ殆ト眞向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ハ兩船共ニ鉞路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ殆ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ニ限リ應用スヘシ各其鉞路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ殆ト眞向ニ行逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ殆ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ル時ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鉞路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナクシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ナクシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ル時ハ應用スヘカラス

第十六條　二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切衝突ノ懼アル時ハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十七條　帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄リ衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條　總テ蒸氣船他船ニ近寄リ衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ且後退スヘシ

第十九條　蒸氣船此規則ニ遵テ鉞路ヲ取ル時ハ左ノ漁笛信號ヲ以テ他船ニ其鉞路ヲ

通知スルヲ得ヘシ

短聲一發　我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發　我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發　我船一杯ノ速力ニテ退却ス

此信號ヲ用フルト否ラサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通リニ其鐵路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條　帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時ハ以上ノ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行シ得ル時ハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條　以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條　此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ

懈怠ノ責

第二十四條　此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船、船主、船長、乘組人員、各其責ヲ免ル可カラサルモノトス

別則

第二十五條　此規則ハ各地官府ニ於テ特ニ制定シタル港、川其他內海ノ航行規則ノ施行ニ干渉セサルモノトス

第二十六條　此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船ニ增揭スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ干渉セサルモノトス

●海上衝突豫防規則中追加

明治十四年六月布告第三十三號

明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則左ノ通追加候條此旨布告候事

但明治九年二月第十一號布告廢止候事

罰則

第二十七條　凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ハ此限ニアラス

●海上衝突豫防規則中改正追加

明治十八年八月布告第二十七號

明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則中左ノ通改正追加シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

第五條　帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ但此紅燈ハ晴天ノ暗夜ニ少ナクモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色形象三個ヲ前檣ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ

海底電信線ノ布置又ハ引揚ニ從事スル船ハ蒸氣船ト帆前船トノ差別ナク夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ノ白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲シ其燈火ハ上下ノ二個ヲ紅色トナシ中央ヲ白色トナシ其紅燈ハ白燈ト同一ノ距離ヲ照スヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ前檣ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ直徑二尺ヨリ少カラサル形象三個ヲ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲シ其上下ノ二個ハ紅色球形ヲ用ヒ其中央ノ一個ハ白色縱菱形ヲ用フヘシ

本條ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖モ運行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條ノ燈火及形象ヲ掲クル船ハ運用自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルヲ標スルモノト他船ニ於テ心得ヘシ但危難ニ罹リ救助ヲ要スル船ハ第二十七條ノ難船信號ヲ用フル者ト心得ヘシ

第十條　第二項中「發スルモ苦シカラス」トアルヲ「發シ又晝夜ニ拘ハラス霧中號角ヲ用フルモ苦シカラス」ト改ム

第十二條　第一項中「霧中號角」トアルヲ「霧中號角或ハ尋常ノ霧中號角」ト改ム

第二十五條中「各地官府」トアルヲ「備其他ノ機械ヲ以テ發聲スヘキ霧中號角」ト改ム

第二十七條ヲ第二十八條ニ改ム

難船信號

第二十七條　危難ニ罹リ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船ハ左ノ信號ヲ用ヒ同時又ハ別々ニ施行スヘシ

晝間信號

(一)凡一分時毎ニ一砲發ヲナスコト

(二)萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ標スルコト

(三)方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之ニ類似スル物ヲ掲クル遠隔信號ヲ標スルコト

夜間信號

(一)凡一分時毎ニ一砲發ヲナスコト

(二)船上ノ發焰(タール桶油樽等ヲ燃燒スルノ類)

(三)各色各種ノ星火ヲ發射スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツヽ數分時毎ニ打揚クルコト

附則

西班牙國フィニステル岬以北ノ歐洲沿海ノ漁船及小船ニノミ左ノ規則適用ニ付該地方施行ノ諸船ニ於テ之ヲ心得ヘシ

(甲)登簿噸數二十噸以上ノ漁船航行シ及次ノ各項ニ記載シタル燈火ヲ掲クルヲ要セサル時ハ他ノ航行船ト同樣ノ燈火ヲ掲クヘシ

(乙)流網ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ハ其船ノ最モ見エ易キ場所ニ於テ二個ノ白燈ヲ掲ケ其燈火ノ縱距離ハ六尺以上十尺以下ヲ隔テ又横距離ハ其船ノ龍骨ト平行線ニ量リ五尺以上十尺以下ヲ隔ツヘシ但此二個ノ白燈ハ下ニ掲クルモノヲ上ニ掲クルモノヨリ前方ニ置キ且晴天ノ暗夜ニ周囲諸方三里以上ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙)約絲ヲ垂レ約魚ニ從事スル船ハ流網ヲ以テ漁獵ニ從事スル船ト同一ノ燈火ヲ掲クヘシ

(丁)漁獵ニ從事スル船其屬具ノ岩礁其他障碍物ニ固著セル爲メ其所ニ駐留スル時ハ碇泊船ト同樣ノ燈火及霧中信號ヲ用フヘシ

(戊)漁船甲板ナキ小船ハ何時ニテモ本條ニ依リテ掲クヘキ燈火ノ外ニ閃光ヲ發スルハ苦シカラス曳網爬網其他曳網ノ類ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ニ於テ閃光ヲ發スル時ハ總テ其船ノ後部ニ於テスヘシ但曳網爬網其他曳網ノ類ヲ船尾ニ繫キタル時之ヲ船首ニ於テ發スルハ此限ニ在ラス

(己)漁船及甲板ナキ小船碇泊中ハ日沒ヨリ日出マテノ間少クモ周囲諸方一里ノ距離ヨリ見ユヘキ白燈ヲ掲クヘシ

(庚)霧中又ハ降雪中ニハ網ニ繫キタル流網船及曳網爬網其他曳網ノ類ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船及釣絲ヲ垂レ釣魚ニ從事スル船ハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ霧中號角ト號鐘トヲ迭ヒニ鳴ラスヘシ

右奉　勅旨布告候事

（參照）前仝斷

（參照）明治十九年二月勅令第二號ニ依リ船舶ノ事務ヲ遞信省ニ屬ス以下皆同シ

●船燈製造方

明治十四年五月布告第三十四號

明治十三年七月第三拾五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

右布告候事

●西洋形船船長運轉手免狀規則

明治十四年十二月布告第七十五號

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來ル十五年一月一日ヨリ施行シ九年（六月）第八十二號同年（六月）第九十四號同年（十二月）第百五十三號同年（十二月）第百五十七號十三年（十二月）第五十八號十四年（二月）第十三號同年（三月）第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

（別冊）

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中內國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及薩哈連諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條　船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條　免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五ニ分チ各々試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條　試驗ノ規程ハ第一號布達ニ據ルヘシ

第四條　高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船々長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條　從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ內乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船々長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ內本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條　免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手數料金一圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ証人ヲ要ス

第七條　免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條　甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條　左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數、公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿	外國航船	甲種免狀船長	一名以上
		同　一等運轉手	同
三百噸以上	同	甲種免狀船長	同
		同　一等運轉手	同
		同　二等運轉手	同
一百馬力未滿	同	同　一等機關手	同
一百馬力以上	同	同　一等機關手	同
		同　二等機關手	同

第二項

一百噸以上三百噸未滿	內國航船	同　乙種免狀船長	同
		同　一等運轉手	同
三百噸以上五百噸未滿	同	同　船長	同
		同　一等運轉手	同
		同　二等運轉手	同
五百噸以上	同	同　甲種免狀船長	同
		同　一等運轉手	同
		同　二等運轉手	同
二十馬力以上五十馬力未滿	同	乙種免狀二等機關手	同
五十馬力以上一百馬力未滿	同	若クハ甲種免狀二等機關手　乙種免狀一等機關手	同
一百馬力以上	同	同　甲種免狀一等機關手	同
		同　二等機關手	同

第三項

二十噸（滊船ハ十噸）以上一百噸未滿	同	乙種免狀二等運轉手	同
		若クハ從前ノ小形船々長	同
二十馬力未滿	同	港內若クハ湖川用　小形船機關手	同
二十馬力未滿	同	小形船機關手	同

但シ二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止、停止ニ係リ受有シ能ハスシテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル者ハ各二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條　農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スルトキ又ハ左ニ揭クル事項ニ於テハ其筋ノ吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコト有ヘシ

第一　亂醉、粗暴、其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戾シ又ハ職務ニ怠ル者

第二　失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷痍ヲ被ラシメシ者

第三　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條　前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルトキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條　免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルトキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條　免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサル者ハ其筋ヘ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條　免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖トモ一ケ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

●西洋形船々長運轉手機關手試驗規程

明治十四年十二月
布達第一號（太政官）

今般第七十五號ヲ以テ西洋形船々長運轉手機關手免狀規則改定ニ付別冊ノ通試驗規程ヲ定ム

右布達候事

（別冊）

西洋形船々長運轉手機關手試驗規程

第一條　凡ソ此規程ニ從テ試驗ヲ願フ者ハ受驗ノ當日ヨリ三日以前ニ其履歷書及ヒ性行善良ナルノ保證書ヲ添ヘ願書ヲ試驗所ヘ出スヘシ

但シ願書用紙ハ試驗所ヨリ附與スヘシ

第二條　定時試驗ハ內國人ハ毎月第一第三水曜日外國人ハ毎月第二火曜日ヲ以テ東京試驗所ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ開カサルトキハ農商務省ヨリ其旨十五日以前ニ

廣告スヘシ

第三條　試驗願書ヲ出ストキ左ニ掲載セル試驗料ヲ前納スヘシ

甲種免狀

船長	七圓
一等運轉手	五圓
二等運轉手	三圓
一等機關手	七圓
二等機關手	五圓

乙種免狀

船長	五圓
一等運轉手	三圓
二等運轉手	二圓
一等機關手	五圓
二等機關手	三圓

小形船機關手免狀

小形船機關手	貳圓

第四條　定日外グリトモ別段手數料トシテ金五圓ヲ納メ臨時試驗ヲ願フトキハ東京ニ限リ司驗官ノ都合ニ因テ之ヲ許スコトアルヘシ

第五條　船長、運轉手、機關手免狀規則第八條ニ從ヒ甲種免狀ヲ請願スル者ハ本途試驗料ノ半額ヲ納ムヘシ

第六條　甲種免狀ヲ受有スヘキ受驗人ハ左ニ記載セル各欵ニ從ヒ履歷アルモノニシテ其試驗問題ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受驗人ハ十九歲以上ニシテ少クトモ四箇年間西洋形航洋船ノ運航ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト見認ムル學校ニ於テ航海運用學卒業ノ上少クトモ三箇年間西洋形船ノ運航ニ從事セシモノトス

試驗問題

○通常文書ノ記載

○加減乘除及ヒ對數ノ用方

○航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ鍼路、航程ニ羅鍼ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離、方位ヲ知ルノ算法

○起程、已達、兩所ノ經緯度ヲ以テ瑪氏航法及ヒ中分緯度航法ニ據リ鍼路、航程ヲ知

ルノ算法
○太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
○太陽出沒方位ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
○六分儀ノ用方
○航海日誌ノ記載方
○索具ノ取付及ヒ取脫方
○揚帆、却帆、縮帆、ノ方法
○順轉、逆轉及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法
○船貨積載ノ方法
○測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限
○大小測鉛ノ重量、其線ノ尺度符合及ヒ其用方
○萬國信號法
○海上衝突豫防規則
○海員雇入雇止規則
一等運轉手
一等運轉手ノ受驗人ハ二十一歲以上ニシテ少クトモ一箇年間登簿噸數一百以上ノ航

洋船ニアリテ二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
試驗問題　二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
○太陽方位角ニ據リ羅銅ノ誤指ヲ知ルノ算法
○潮時ノ算法
○時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
○岬角、燈臺等ノ方位ヲ測リ或ハ經緯度ニ據リ海圖ニ本船所在ノ位置ヲ記シ又偏差、自差ヲ加減シテ鍼路ヲ定メ航程ヲ求ムルノ方法
○六分儀ノ動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ又太陽及ヒ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
○碇泊、放泊ノ方法
○風潮ノ變化ニ際シ放泊船ヲ安全ニ處置スルノ方法
○出入港運轉ノ方法
○檣ヲ立ルノ方法
○重貨積載ノ方法
○暴風ノ際船ヲ運轉シ或ハ不慮ノ災害ニ臨ミ之ヲ處置スルノ方法
○日本海岸ノ地勢
船長

船長ノ受驗人ハ二十三歲以上ニシテ少クトモ一箇年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題　二等及一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ

○子午線ニ近キ太陽ノ高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
○星象子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
○地平儀ヲ用ヒテ測リタル太陽高度ノ改正
○各種ノ方法ニ據リ本位羅鍼ノ自差ヲ定メ及那氏ノ式ニ從テ其圖ヲ製スルノ方法
○難破ノ際人命ヲ救助スルノ方法
○颶風ノ解明及ヒ之ヲ避クルノ方法

二等機關手

二等機關手ノ受驗人ハ二十一歲以上ニシテ少クトモ四ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル瀛機製造所ニアリテ少クトモ三箇年間汽罐及機關ノ製造又ハ修繕ニ從事シ且少クトモ一箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシモノトス

試驗問題

○通常文書ノ記載
○加減乘除及ヒ比例法
○機關室日誌ノ記載方
○馬力ノ解明及ヒ算法
○喞筒ニテ排出スル水量ヲ知ルノ算法
○安全瓣ノ種類、效用及ヒ算法
○汽罐及ヒ機關ノ檢査並處置
○汽罐各種ノ解明及ヒ其固定法
○瓣嘴ノ效用及ヒ諸管接合ノ方法
○外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
○汽罐及ヒ機關ノ損所ヲ修繕スルノ方法
○汽罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ效用及ヒ用法
○沸溢、擦熱ヲ起スノ原因ヲ熟知シ及ヒ之ヲ回復スルノ方法
○驗温器、驗氣器、驗鹽器ノ效用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受驗人ハ二十三歲以上ニシテ少クトモ一箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題　二等機關手ノ試驗問題ヲ合セ

○面体ノ求積及ヒ開平法
○瀛罐ノ强弱ヲ知ルノ算法
○膨張力ノ效用及ヒ其算法
○指壓器ノ用方及ヒ之ニ據リ實馬力ヲ知ルノ算法
○螺旋ノ匂配及ヒ其角度ヲ求ムルノ算法
○製造ノ爲メ汽罐及ヒ機關ニ於ル局部ノ製圖
○加熱器ノ種類及ヒ其效用
○滑瓣及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ裝置スルノ方法
○汽罐及ヒ機關ニ於ケル肝要ナル部分ノ割合

第七條　乙種免狀ヲ受有スヘキ受驗人ハ左ニ記載スル各欵ニ從ヒ履歷アルモノニシテ其試驗問題ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受驗人ハ三十歲以上ニシテ少クトモ六箇年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ內少クトモ三箇年間西洋形航洋船ニアリシモノトス

試驗問題

○通常文書ノ解讀
○加減乘除
○羅鍼ノ解明
○揚帆、卸帆及諸帆ヲ整頓スルノ方法
○船貨積載ノ方法
○測程線ノ尺度其用法及ヒ沙漏ノ時限
○大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及其用法
○海上衝突豫防規則
○海員雇入雇止規則

一等運轉手

一等運轉手ノ受驗人ハ二十二歲以上ニシテ少クトモ七箇年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ內少クトモ四箇年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリシモノトス

試驗問題　二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ

○航海日誌ノ記載方
○航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ鍼路、航程ニ羅鍼ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離方位ヲ知ルノ算法

○太陽出沒方位ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
○羅鍼ニ據リ岬角、燈臺等ノ方位ヲ測リ又ハ經緯度ニ據リ海圖上ニ本船所在ノ位置ヲ記シ及ヒ偏差、自差ヲ加減シテ鍼路ヲ定メ航程ヲ測ルノ方法
○順轉、逆轉、縮帆及ヒ出入港運轉ノ方法
○重貨積載ノ方法
○萬國信號法

船長

船長ノ受驗人ハ二十五歲以上ニシテ少クトモ二箇年間簿登噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題　二等及ヒ一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ

○太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
○時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
○六分儀ノ用法及ヒ動鏡地平鏡等ノ位置ヲ正シ太陽又ハ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
○暴風ノ際船舶ヲ運轉シ及ヒ不慮ノ災害ニ臨ミ之レヲ處置スルノ方法
○颶風ノ定則及ヒ之レヲ避クルノ方法

○日本海岸ノ地勢

二等機關手

二等機關手ノ受驗人ハ二十二歲以上ニシテ少クトモ五箇年間船用機關運轉ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル瀛機製造所ニアリテ少クトモ三箇年間瀛罐及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ從事シ且二箇年以上船用機關運轉ニ從事セシモノトス

試驗問題

○通常文書解讀
○加減乘除
○機關室日誌ノ記載方
○汽罐及ヒ機關ノ檢査並處置
○運轉中汽罐及ヒ機關ニ於ケル注意
○安全瓣ノ種類、効用及ヒ其錘量ノ增減
○汽罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
○瓣嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
○汽罐及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法
○沸溢、擦熱ヲ生セシトキ之ヲ回復スルノ方法

○驗温器、驗氣器、驗擡器ノ効用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受驗人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二箇年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題　二等機關手ノ試驗問題ヲ合セ

○馬力ノ解明及ヒ算法

○汽罐各種ノ解明及ヒ安全瓣ノ算法

○外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法

○膨脹力ノ解明及ヒ算法

○加熱器ノ効用及ヒ其種類

○汽罐及ヒ機關中肝要ナル部分ノ割合

第八條　小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受驗人ハ左ニ記載スル履歴アルモノニシテ其口上試驗問題ニ應答スヘシ

小形船機關手

小形船機關手ノ受驗人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ三箇年間船用機關運轉ニ從事セシモノトス

試驗問題

○通常ノ讀書

○汽罐及ヒ機關ノ檢査並處置

○運轉中汽罐及ヒ機關ニ於ケル注意

○安全瓣ノ效用及ヒ其錘量ノ增減

○汽罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法

○汽罐及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法

○沸溢及ヒ擦熱ヲ生セシトキ之ヲ回復スルノ方法

第九條　乙種免狀若クハ從前ノ假免狀ヲ受有シ既ニ一箇年以上其職ヲ執リシ者ハ甲種ニ於テ同等ノ試驗ヲ出願スルヲ得ヘシ

第十條　甲種ニ從フ試驗ニ於テ其紙上ノ答ヲ爲スノ時限ハ五時間ト定メ乙種ノ時限ハ三時間ト定ム若シ此時限ヲ過キテ其答ヲ畢ラサレハ之ヲ落第者ト爲スヘシ

第十一條　受驗人ハ書籍及ヒ書留類ヲ携帶シテ試驗場ヘ入ルヲ許サス

第十二條　船長及ヒ運轉手ノ受驗人ハ平生各自ノ熟知セル算式及ヒ航海表ヲ用ヒテ問題ニ答フルハ妨ケナシ故ニ自己ノ慣用セル表ニ限リ試驗場ニ携帶シ得ヘシ

第十三條　受驗人若シ他ノ受驗人ノ文案ヲ竊取シ或ハ助力ヲ授受シ其他如何ナル手

段ニ據ルモ出場中他ノ受驗人ト往復セシコト發覺スルニ於テハ之レヲ落第者トナスヘシ

第十四條　紙上ノ問題ニ應答スルニ方リ其問題ノ總數三分一ヨリ以上ノ誤算アルモノ又ハ問題中ノ算法ヲ解シ得サルモノハ落第者トナスヘシ然レトモ其誤算問題ノ總數三分一ニ止ルトキハ之ヲ改正セシメ其正算ヲ得ルモノハ紙上ノ試驗ニ於テ及第者トナスヘシ

第十五條　受驗人紙上ノ試驗ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ三箇月以上ヲ經ルニ非サレハ再試ヲ許サス又口上ノ試驗ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ六箇月以上實地修業セルノ確証アルニアラサレハ再試ヲ許サス

第十六條　受驗人紙上及ヒ口上ノ問題ニ正シク答ヘ異ルトキハ司驗官ヨリ直ニ及第証書ヲ本人ニ附與シ其旨ヲ農商務省ヘ報告スヘシ

農商務省ニ於テハ其報告ニ據リ受驗人及司驗官ノ氏名ヲ簿冊ニ登記シ應等ノ免狀ヲ授與スヘシ

●船舶積量測度規則

明治十七年四月
布告第十號

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別紙）

船舶積量測度規則

第一條　凡ソ船舶（海軍艦船ヲ除ク）ノ積量此ハ規則ニ依リ測度スル者トス

第二條　船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ

第三條　西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トス

第四條　西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

第五條　西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以上ニ船室アレハ其

噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條　汽船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乘組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタルモノトス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乘組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス

第七條　乘組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六トス

第八條　機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

外車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十七

暗車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ總噸數ノ百分ノ三十二

機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車汽船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車汽船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

第九條　日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシテ又其構造同漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス

第十條　船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

●船舶積量測度方法

明治十七年四月
布達第十號（太政官）

今般第十號ヲ以テ船舶積量測度規則布告候ニ付テハ船舶積量測度方法別紙ノ通相定ム

（別紙）

船舶積量測度方法

第一條　西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　量噸甲板上ニテ船首ノ內側ヨリ船尾ノ內側ニ至ル長ヲ測リ之ヨリ甲板ノ厚ニ準ヒ船首船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長及ヒ終尾船梁ノ矢（船梁ノ弧形ヲナス高）ノ三分ノ一下ニテ船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長ヲ減シテ量噸甲板下ノ長トシ之ヲ左ノ等級ニ準ヒ等分スヘシ

第一級　量噸甲板下ノ長五十尺迄ノ船ハ四個

第二級　同五十尺以上百二十尺迄ノ船ハ六個

第三級　同百二十尺以上百八十尺迄ノ船ハ八個

第四級　同百八十尺以上二百二十五尺迄ノ船ハ十個

第五級　同二百二十五尺以上ノ船ハ十二個

量噸甲板下ノ長ヲ等分シタル後其各分長點ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底內板ノ上面ニ至ル深ヲ測リ之ヨリ船梁ノ矢三分ノ一ヲ減シ之ヲ各分長點ニ於ケル量噸

甲板下ノ深トス而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四個十六尺以上ナルトキハ六個ニ各深ヲ等分スヘシ

各深ヲ等分シタル後其各分深點及上下兩端ニ於テ艙內ノ幅ヲ測定スヘシ

各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅（上下兩端ヲ除ク）ハ二倍シ此合數ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ其得數ヲ各分長點ニ於ケル橫截面積トス

各分長點ノ橫截面積ヲ側リタル後之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ當ル面積（船首船尾ノ兩端ヲ除ク）ハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ面積（若シアレハ）ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ量甲板下ノ噸數トス噸

第二項　最上甲板上諸室ノ噸數ヲ測定スルニハ該室內ノ平均ノ長ト高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ該室ノ前後ト中央ノ幅ヲ測リ而シテ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第三項　甲板三層以上ノ船ニ於テ量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ測定スルニハ甲板間ノ平均ノ高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ船首ノ內側ヨリ船尾ノ內側ニ至ル長ヲ測リテ之ヲ量噸甲板下ノ長ト同一ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其各分長點及ヒ前後兩端ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅（船首船尾ノ兩端ヲ除ク）ハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ幅（若シアレハ）ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第二條　機關室ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　機關室內平均ノ長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數トス

第二項　機關室ノ上端ニ機關運轉又ハ空氣流通等ノ爲メ圍ヒタル場所アルトキハ其長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三項　暗車汽船ニ於テハ軸室平均ノ長幅高ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三條　甲板ナキ西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　船首上端ノ內側ヨリ船尾上端ノ內側ニ至ル長ヲ測リ之ヲ第一條第一項ニ揭クル等級ニ準ヒ等分シ其各分長點ニ於テ船肱ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其他第一條第一項ニ據リテ噸數ヲ求メ之ヲ該船ノ總噸數トス

第二項　船舷上端ノ境線ヲ超エ船室ノ設ケアルモノハ境線上ニ於ケル該室平均ノ長幅高ヲ測リテ之ヲ相乘シ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ該線下ノ噸數ニ加フヘシ

第四條　日本形回漕船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項　船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ヲ測リ又船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ヲ測リ又船舷ノ內側ヨリ內側ニ至ル平均ノ幅ヲ測リテ此長幅高ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁上船艙ノ石數トス

第二項　船首室ノ境界ヨリ船尾ノ內側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點及ヒ前後兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁下船艙ノ石數トス

第五條　日本形ニシテ其構造回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

船首ノ內側ヨリ船尾ノ內側ニ至ル船底ノ長ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其深ノ中央及ヒ上下ニテ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ該船ノ石數トス

●汽船公稱馬力算定方法

明治十七年五月　農商務省達第十三號

府縣

汽船公稱馬力算定方法左ノ通相定候條此旨相達候事

公稱馬力算定方法

第一　冷汽器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ汽筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ十個ニテ除シタルモノ

但汽筩二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第二　冷汽器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ汽筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ三十個ニテ除シタルモノ

但汽筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第三　冷汽器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ十個ニテ除シタルモノ

但汽筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタ

ルモノ

第四　冷汽器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ三十個ニテ除シタルモノ

但汽筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

●西洋船舶檢査規則

明治十七年十二月　布告第三十號

西洋形船舶檢査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

（別冊）

西洋形船舶檢査規則

第一條　西洋形船舶（海軍艦船ヲ除ク）ハ此規則ニ遵ヒ檢査ヲ受クヘシ但登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニアラス

第二條　船舶檢査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條　檢査所々在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ檢査ハ其最寄檢査所ニ願出ヘシ

第四條　檢査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條　登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條　檢査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル檢査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條　檢査官吏ニ於テ船舶ヲ檢査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル檢査證書ヲ交付ス但地方廳ノ檢査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

一　番號
一　船名
一　船主氏名
一　定繫場名
一　登簿噸數
一　端船其他必要ノ所屬品
一　航行シ得ヘキ場所ノ定限
一　証書有效期限

汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ

一　公稱馬力
一　汽機ノ種類
一　汽罐ノ種類
一　最大汽壓
一　旅客定員

第八條　檢査官吏ニ於テ船舶ヲ檢査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ

第九條　檢査証書ノ效力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス

第十條　檢査証書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十一條　檢査証書ハ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條　船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ屆出ヘシ

第十三條　船体若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ檢査ヲ受クヘシ

第十四條　船舶航行ノ用ヲ爲サヽルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ檢査証書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條　檢査証書ノ有效期限内ト雖モ檢査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條　船舶ノ檢査ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無效ノ檢査証書ヲ使用シ又ハ檢査証書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ檢査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　檢査証書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　檢査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條　第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　檢査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

●西洋形船舶檢査規則第五條ニ掲クル汽船檢査方

明治十七年十二月第三拾號布告西洋形船舶檢査規則第五條ニ掲クル汽船ニシテ官有ニ屬スルモノハ其所屬官廳ニ於テ檢査シ其商業上ニ使用スルモノニ限リ當省ニ於テ檢査ス

明治十九年三月
遞信省令第一號

北海道廳　府縣

●西洋形船舶檢査細則

明治十九年四月
遞信省令第四號

西洋形船舶檢査細則左ノ通之ヲ定ム

西洋船形舶檢査細則

第一條　西洋形船舶檢査規則ニ依リ檢査ヲ受クヘキ船舶ハ此細則ニ據ルヘシ

第二條　檢査規則第三條及第五條ニ掲クル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ直チニ司檢所(不登簿船ハ其地方廳)ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第三條　檢査規則第四條ニ掲クル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ其船籍地方廳ヲ經テ豫シメ遞信省ニ差出シ檢査官吏ノ派出ヲ俟テ便宜其檢査ヲ受クヘシ

第四條　檢査ヲ受ケ檢査證書ヲ受領セサル以前ニ於テ本船ヲ運航セントスルトキハ其船主若クハ船長ヨリ檢査官吏ニ請フテ第二號書式ノ假證書ヲ受クルコトヲ得但假證書ノ効用ハ三箇月ヲ以テ限リトス故ニ右期限內本證書ト交換スヘシ

第五條　遞信省若クハ地方廳ハ第三號書式ノ檢査證書ヲ作リ登簿船ハ司檢所ヲ經由シ不登簿船ハ便宜之ヲ船主若クハ船長ニ下渡スヘシ但檢査規則第四條ニ掲クル船舶ニハ其地方廳ヲ經テ之ヲ下渡スヘシ

第六條　檢査規則第七條ニ掲クル航路ノ定限ハ左ノ四項ニ區分ス

第一　外國航船　內外國諸港ニ航通スルモノ

第二　內國航船　內國諸港ニ航通スルモノ但朝鮮國南界ノ鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ル沿岸及ヒ薩哦嗹諸港ニ航スルモノモ包含ス

第三　近海航船　內國沿岸ノ近港及ヒ內地ト離島ノ間ヲ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第四　平水航船　湖川及ヒ靜穩ノ海上ヲ限リ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第七條　左ノ場合ニ限リ航路定限外ヲ航行スルモ妨ケナシ

第一　航路定限外ノ地ニ於テ製造若クハ購求シタル船舶檢査ヲ經タルト否トヲ問ハス其航路定限內ノ地或ハ最寄司檢所其他檢査ヲ受ヘキ場所迄航行スルモノ

第二　航路定限内ニ檢査ヲ受クヘキ一定ノ場所ナキカ爲メ特ニ最寄司檢所其他檢査ヲ受クヘキ場所迄航行スルモノ

第三　航路定限内ニ於テ船體若クハ汽機汽罐其他要部ヲ修繕スヘキ場所ナク爲メニ最寄工場所在地迄航行スルモノ

第八條　船内旅客ノ定員ハ寢床ノ數ヲ以テ定ム尤モ雜居室ノ定員ハ左項ニ據ルヘシ

但多數ノ兵卒若クハ移住民人夫等ヲ搭載シ航通スルモノ及ヒ河川渡舟ノ如キハ旅客定員ノ限ニアラス

第一　外國船路ハ一坪六尺四方下等三人但内國ヲ限リ航通スルモノハ内國航船ノ旅客定員ニ據ルヲ得

第二　内國航船ハ一坪六尺四方上等二人中等三人下等四人

第三　近海船航及ヒ平水航船ハ一坪六尺四方上等四人中等五人下等六人但航通ノ途次他ニ寄港スルト否トヲ問ハス六時間以内ニ仕向港最終ノ地ニ到達シ得ヘキモノハ定員ノ外一坪六尺四方ニ付上中等ハ一人下等ハ二人マテヲ增加スルヲ得

第四　湖川ヲ限リ航通スル船舶ノ下等旅客ハ場合ニヨリ一坪六尺四方十人迄ニ增加スルヲ得

第九條　登簿噸數五百噸以上ノ船舶ニシテ船體汽機ノ外國航通ニ堪ヘサルモノヲ除

クノ外ハ其外國ニ航スルト否トヲ問ハス都テ外國航船トシテ檢査ヲ受クヘシ

第十條　登簿免狀ヲ受有スル船舶ハ臨時檢査ヲ除クノ外前回檢査ヲ受ケタル司檢所（檢査規則第四條ニ掲クル船舶ハ最寄司檢所（不登簿船ハ其地方廳）ニ願スル等ノ場合ニ於テハ此限ニアラス）ヘ次回ノ檢査ヲ願出ヘシ但其航路ヲ變出テ檢査ヲ受クヘシ

第十一條　檢査規則第十三條ニ掲クル船舶ハ最寄司檢所（不登簿船ハ其地方廳）ニ願

第十二條　船主ノ都合ニ依リ船舶ヲ入渠若クハ上架セントスルトキハ其旨ヲ前回檢査ヲ受ケタル司檢所（檢査規則第四條ニ掲クル船舶ハ管船局ニ又不登簿船ハ其地方廳）ニ届出ヘシ

第十三條　檢査執行ノ際船免狀及ヒ乘組員技術免狀ヲ合セテ檢査官吏ノ檢閲ニ供スヘシ

第十四條　定時臨時ニ拘ハラス修繕等ノ爲メ運航ヲ差止メタルトキハ檢査官吏ニ於テ本船現有ノ檢査證書ヲ引上置クヘシ

第十五條　檢査規則第十一條第十二條第十四條ノ場合ニ於テハ船主若クハ船長ヨリ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ前回檢査ヲ受ケタル司檢所（不登簿船及檢査規則第四條ニ掲クル船舶ハ其地方廳）ニ差出スヘシ

第十六條　船舶檢査ノ方法及ヒ細目ハ管船局發行ノ檢査手續書ニ據ルヘシ

第一號書式

汽帆船何丸第何回御檢査願

一本船船主宿所氏名若クハ會社名其所在地
一總噸數及登簿噸數
一定繫場
一本船製造年月及ヒ場所
一船體材料
一綱具ノ裝置
一公稱馬力
一推進器ノ種類
一航路定限
一前期檢査ノ場所（第一回ノ願書ニハ之ヲ除ク）
一前期檢査證書有效期限（前ニ同シ）
一前回本船入渠檢査年月日
一前回汽罐水壓試驗年月日

右ノ汽帆船（當時何地ニ碇泊若クハ入渠中ニ付御檢査被成下度）（何地ヨリ何地ノ間ヲ航通司檢所所在地ニ回航不仕候ニ付何地ニ於テ御檢査奉願度候間其旨遞信省ヘ御上申被下度）此段奉願候也

明治　年　月　日

船主若クハ船長
何　某
現住所

司檢所
地方廳　宛

第二號書式

船名	船主氏名	航路定限	檢査地名	登簿噸數	定繫場	旅客定員 上等	旅客定員 中等

第三號書式

船		
番號	船名	證書

檢査地名	登簿噸數	定繫場

假證書

端艇其他屬具	汽機種類	汽鑵種類	員	公稱馬力	最大汽壓
			下等		

右ノ船舶檢査ノ上記載ノ航路航通ニ適當ナルヲ以テ此檢査假證書ヲ附與スル者也

但シ此假證書ハ明治　年　月　日ヲ限リ無効タルヘシ

明治　年　月　日

官　姓　名　印

（二名以上ノ檢査ニ係ルトキハ連署スルモノトス）

船舶檢査證書

有効期限	航路定限	端艇其他屬具	汽機種類	汽鑵種類	船主氏名	旅客定員 上等	旅客定員 中等	旅客定員 下等	公稱馬力	最大汽壓

右ノ船舶檢査ノ上本書期限中記載之航路航通ニ適當ナルノ報告ヲ得ルニ依リ西洋形船舶檢査規則ニ遵ヒ此證書ヲ附與スルモノ也

明治　年　月　日

遞信省
地方廳　印

●日本形五百石以上ノ船舶明治二十年ヨリ製造禁止

明治十八年七月
布告第十六號

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス

右奉　勅旨布告候事

●幌内鐵道手宮棧橋繫船規約

明治十八年七月
農商務省告示第十五號

當省所轄札幌縣下幌内鐵道手宮棧橋ハ幌内石炭船積ノ爲メ架設セシモノニ候處尚ホ一般ノ便利ヲ謀リ各船ヲ繫泊シ貨物積卸ヲ許可スル時ハ左ノ規約ニ從フヘシ

右告示候事

幌内鐵道手宮棧橋繫船規約

第一條　凡ソ船舶ヲ棧橋及錨標ニ繫泊セントスルトキハ船長或ハ其代理者ヨリ豫メ其旨ヲ手宮停車場ヘ申出許可ヲ受クヘシ

第二條　凡ソ船舶ハ棧橋ニ於テ繫泊シ又ハ解纜スル爲メ必要ナル少時間ヲ除クノ外錨標ニ繫泊スルヲ許サス又風位天候ノ如何ヲ論セス總テ棧橋ニ來リ又ハ之ヨリ去ル船舶ノ妨害ヲ爲ス如キ接近ノ位置ニ繫泊スルヲ許サス

第三條　棧橋ニ繫泊スル船舶若シ之ヨリ離ルヘキヿヲ命セラレタルトキハ速ニ錨標ニ移ルヘシ再ヒ許可ヲ受クルマテハ棧橋ニ繫泊スヘカラス但此場合ニ於テハ棧橋附屬ノ錨標ニ繫留セス直ニ去テ他船ノ棧橋ニ來去スルニ支障ナキ所ニ投錨スヘシ

第四條　鐵鎖網繩其他繫泊ノ川具ハ其爲メ設ケタル方法ニ據ルニ非レハ棧橋ノ如何ナル部分ニモ附著スヘカラス但石炭積取船ノ外ハ棧橋ノ極端ヨリ四百尺ノ間ニ繫船スヘカラス

第五條　日曜日休暇日及暴風雨ノ日ヲ除キ平日業務時間ハ日出ニ始リ日沒ヲ以テ終ルモノトス但小樽船改所ノ許可ヲ受ケタル者ニ限リ特別ニ夜業ヲ許スコトアルヘシ

第六條　門戸ハ日沒ヨリ一時ヲ經テ閉ヘシ其後ハ何人タリトモ出入スルヲ許サス

第七條　縱令如何樣ノ事情アルトモ棧橋ニテ瀝青(ピッチナフール)滿等ヲ煑或ハ一切ノ火ヲ焚クヲ許サス

第八條　火藥ナイトロー、グリセリン石腦諸酸(ペトロリヤム)其他危險爆發質ノ物品ハ別段ノ許可ヲ受クルニ非レハ棧橋ニ荷揚スルヲ許サス總テ右等ノ物品ヲ積載スル船舶ハ棧橋或ハ錨標ニ來著ノ前ニ其由ヲ報告スヘシ

第九條　灰輕荷石泥ノ差ハスト別ナク其他何品ヲ問ハス廢物ヲ船舶ヨリ投棄シ或ハ棧橋ニ荷揚スヘ

カラス

第十條　棧橋ニテ荷揚スル船舶ハ自己ノ滑車ヲ用ユヘシ

第十一條　棧橋ヨリ積卸貨物ハ手宮停車場ニ於テ定ムル所ノ棧橋使用料ヲ徵收スヘシ但棧橋ヨリ手宮停車場間ノ運搬ハ手宮停車場ニ於テ取扱フモノトス

第十二條　棧橋及ヒ錨標ニ繫泊スル船ノ爲メニ棧橋又ハ錨標ヲ毀損セシ時ハ其修繕費ヲ償ハシムヘシ但天災非常ニ因リ毀損セシ時ハ此限ニアラス

第十三條　棧橋或ハ錨標ヲ用ユル船舶ノ長或ハ其代理者ハ前ニ列記シタル規約ヲ遵守スヘシ其承認ノ證トシテ規約寫書下附ノ時受書ニ調印スヘシ

●神戸鐵道棧橋繫船規約明治十八年七月(工部省)告示第二十四號

(幌内鐵道手宮棧橋繫船規約ト文義同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス)

●外國船舶雇入回漕ノトキ出帆前雇主ヨリ其港稅關ヘ屆出方

明治七年七月
達第九十五號(太政官)

外國船舶各廳ヨリ伺濟ノ上雇入開港及不開港場ヘ回漕ノ節ハ自今出帆ノ前雇主ヨリ其港稅關ヘ申出候樣可取計此旨相達候事

明治十八年十一月
達第六十號(太政官)

●官廳ニ於テ外國船ヲ雇入レ不開港場ヘ廻船ノ節通知方

官省院廳府縣

外國船ヲ雇入レ開港場及不開港場ヘ廻船ノ儀ニ付明治七年七月第九十五號ヲ以テ相達候處自今不開港場ヘ廻船ノ節ニ限リ其雇入タル官廳ヨリ稅關ヘ通知スルト同時ニ其管轄廳ヘモ通知スヘシ此旨相達候事

●百噸以上ノ西洋形船舶所有者航海及碇泊記事記載差出方

明治十九年一月
海軍省達乙第一號

府縣

百噸以上ノ西洋形船舶所有者ニ限リ航海及碇泊記事自今左表ノ通記載セシメ毎年六月十二月兩度管轄廳ヨリ直ニ當省水路局ヘ差出スヘシ

日時	記事	錨鎖	寒暖儀	晴雨儀	羅針偏差	天候	風力	風候位	航用羅針	航程 分	航程 里	大口 時辰
午前	記事ハ出港入灣及航海中緩ナ何方ニ折リ島嶼岬角記事ハ其向ニ望ムコト或ハ風雲雷雨ノ發起消息或ハ暗礁淺渚ノ遷置發明或ハ蒸汽機關ノ破損帆檣路部ノ毀折其他沖掛リノ機械等ニ至ルマテ總テ航海者ノ注意ニ係ル所ノ者ヲ取リ其時分秒ニ因テ之ヲ細記スヘシ											一時
												二時
												三時
												四時
												五時
												六時
												七時
												八時
												九時
												十時
												十一時
												正午
午後												一時
												二時
												三時
												四時
												五時
												六時
												七時
												八時
												九時
												十時
												十一時
												正子

●海上衝突豫防規則信號器中星火ヲ發スル榴彈其他無免許製造者罰金處分

明治十九年六月
遞信省令第十二號

明治十八年八月第二十七號布告海上衝突豫防規則改正追加ニ記載シタル信號器中星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭、信號焰管及ヒ轟彈ハ遞信省ノ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ之ヲ製造スルヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

●海上衝突豫防規則中信號器船舶ニ備置方

明治十九年六月
遞信省令第十三號

海上衝突豫防規則中ニ掲クル信號器ハ左ノ制限ニ從ヒ各船舶ニ備ヘ置クヘシ

但艀舟及ヒ甲板ナキ諸舟幷湖川ヲ限リ航行スル諸船ハ此限ニアラス

一外國航船

一大砲一門若クハ二門　　裝藥十二箇以上

但難船信號轟彈ヲ以テ大砲ニ代用スルヲ得此場合ニ於テハ該轟彈十二箇以上ヲ備フヘシ

一星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭　　十二箇以上

一信號焰管　十二箇以上
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇
一黑色球　三箇
一紅色球燈　三箇
一號鐘　一箇
一汽笛（汽船）　一箇
一萬國船舶信號旗　一揃
一內國航船
一大砲一門若クハ二門　裝藥六箇以上
但難船信號轟彈ヲ以テ大砲ニ代用スルヲ得此場合ニ於テハ該轟彈六箇以上ヲ備フヘシ
一星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭　六箇以上
一信號焰管　六箇以上
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇
一黑色球　三箇
一紅色球燈　三箇

一號鐘　一箇
一汽笛（汽船）　一箇
一萬國船舶信號旗　一揃
一近海航船
一星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭　六箇以上
一信號焰管　六箇以上
一黑色球　三箇
一紅色球燈　三箇
但百海里以內ヲ航通スルモノハ前四項ノ信號器ヲ備フルノ限ニアラス
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇
一號鐘　一箇
一汽笛（汽船）　一箇
一萬國船舶信號旗ノNC.（難船信號）　一組
一平水航船及不登簿帆船
一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇
一號鐘　一箇

一汽　笛　（汽船）　一箇

一日本形回漕船

五百石以上ノモノ

一星火ヲ發スル火箭或ハ信號燄管　六箇以上

一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇

一號　鐘　一箇

一萬國船舶信號旗ノNC.　（難船信號）　一組

一日本形回漕船

百石以上五百石未滿ノモノ

一機械製霧中號角或ハ尋常號角　一箇

一號　鐘　一箇

●船燈信號器製造販賣規則ヲ定ム

明治十九年七月
逓信省令第十九號

船燈信號器製造販賣規則左ノ通定ム

但明治十四年八月農商務省甲第四號布達ハ廢止ス

船燈信號器製造販賣規則

第一條　船燈（檣燈、舷燈）發火信號器（星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭、信號焰管、蠟彈）ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ逓信省ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　發火信號器ノ許可ヲ乞フトキハ製造人又ハ代理人各種共十箇以上ノ見本ヲ携帶シテ逓信省ノ試驗ヲ受クヘシ但試驗入費ハ出願人ヲシテ負擔セシム

第三條　逓信省ハ船燈、發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ

第四條　免許製造ノ船燈、發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ

第五條　免許製造ノ船燈、發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス

第六條　船燈、發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且ツ其製造所、販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ

第七條　免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願出ツヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條　船燈、發火信號器製造人ノ員數ハ逓信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ增減スルヲ得ヘシ

第九條　逓信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其

製器ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルコトアルヘシ

第十條　不合格ノ製器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命シ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條　不合格ノ船燈、發火信號器ヲ製造又ハ販賣スル者アルトキハ遞信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條　第四條第五條ヲ犯スモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●船燈信號器監査手續ヲ定ム

明治二十年二月　遞信省訓令第一號

廳沿海府縣並滋賀縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治十八年四月農商務省第十一號達船燈監査手續概目ヲ廢止シ船燈信號器監査手續左ノ通定ム

船燈信號器監査手續

第一條　船燈信號器ノ監査ハ所轄廳ノ官吏ヲシテ船燈發火信號器製造所販賣所及繫泊ノ船舶ニ就テ施行セシムヘシ

但西洋形船舶檢査規則ニ據リ檢査スヘキ船舶及甲板ナキ漁船小舟ハ此限ニアラス

第二條　監査官吏ハ船燈信號器製造販賣規則第九條ニ從ヒ製器ノ適否ヲ監査シ合格ノ船燈ニハ其廳名アル檢印（檣燈ハ側面　舷燈ハ前面）ヲ銘シ不合格ノ船燈發火信號器ハ該規則第十條第十一條ニ據リ處分スヘシ

第三條　繫泊ノ船舶ハ船籍ノ自他ニ拘ハラス定時（四月十月）又ハ臨時之ヲ監査シ甲號書式ニ從ヒ監査證書ヲ下付スヘシ

第四條　無檢印ノ船燈ヲ所持スルモノ其購入ノ年月監査手續施行以後ニ係ルトキハ之ヲ製造及販賣セシモノヽ住所氏名ヲ取糺シ遞信省ニ報告スヘシ

第五條　製造人ノ確證ナキ發火信號器ヲ所持スルモノアルトキハ製器ノ適否ニ拘ハラス其確證アルモノト更換セシムヘシ

第六條　號角號鐘ノ尺度ハ本年當省告示第八號ニ據リ其音響ノ充分ニ達スルモノヲ要スヘシ

第七條　監査證書ハ第一回ヨリ第五回目ノ監査ヲ了ル迄ハ各地方ヲ通シ該證書欄內ニ其都度監査官吏加書押印シ參照ノ便ニ供スヘシ

第八條　每回監査ヲ了リタル上ハ乙丙號書式ノ監査表ヲ製シ一箇年兩度（六月十二月）ニ取纏メ遞信省ニ報告スヘシ

第九條　製造人販賣人ノ住所氏名ハ廳府縣ヨリ官報ニ揭載スヘシ

但人員增減改名轉籍等其都度本項ニ據ルヘシ

第十條　船燈信號器犯則ノ處分ニ係ルモノハ其事實ヲ詳記シテ遞信省ニ屆出ヘシ

第十一條　監査官吏ハ船長若クハ重立タル海員ニ向ツテ海上衝突豫防規則ノ要件ヲ尋問シ若シ通曉セサル者アレハ懇篤ニ教示スヘシ

但船燈、隔板、碇白燈、火箭、焰管、號角、號鐘、信號旗ノ裝置若クハ使用ヲ熟知セサルモノアレハ懇篤ニ之ヲ指示スヘシ

第十二條　前數條ニ基キ地方ノ便宜ニ依リ別ニ細目ヲ設クルトキハ遞信省ニ屆出ヘシ

甲號

船燈信號器監査之證

監査回數	一回	二回	三回	四回	五回
監査年月日					
廳府縣監査員氏名印					
船名					
積石（噸）					

第一條　船燈（檣燈、舷燈）發火信號器（星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭、信號焰管、蠟彈）ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ遞信省ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　發火信號器ノ許可ヲ乞フトキハ製造人又ハ代理人各種共十箇以上ノ見本ヲ携帶シテ遞信省ノ試驗ヲ受クヘシ但試驗入費ハ出願人ヲシテ負擔セシム

第三條　遞信省ハ船燈、發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ

第四條　免許製造ノ船燈、發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ

第五條　免許製造ノ船燈、發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス

第六條　船燈、發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且ツ其製造所、販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ

第七條　免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願出ツヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條　船燈、發火信號器製造人ノ員數ハ遞信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ增減スルヲ得ヘシ

第九條　遞信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其

但人員增減改名轉籍等其都度本項ニ據ルヘシ

第十條　船燈信號器犯則ノ處分ニ係ルモノハ其事實ヲ詳記シテ遞信省ニ届出ヘシ

第十一條　監査官吏ハ船長若クハ重立タル海員ニ向ツテ海上衝突豫防規則ノ要件ヲ尋問シ若シ通曉セサル者アレハ懇篤ニ敎示スヘシ

但船燈、隔板、碇白燈、火箭、焰管、號角、號鐘、信號旗ノ裝置若クハ使用ヲ熟知セサルモノアレハ懇篤ニ之ヲ指示スヘシ

第十二條　前數條ニ基キ地方ノ便宜ニ依リ別ニ細目ヲ設クルトキハ遞信省ニ届出ヘシ

甲號

船燈信號器監査之證

監査回數	一回	二回	三回	四回	五回
監査年月日					
縣監査員氏名印					
船名					
積石（噸）					

乙號

明治　年　月中
船燈發火信號器製造所及販賣所監査報告書

監査月日	監査地名	舷燈大小形及適否員數	檣燈大小形及適否員數	船燈製造人氏名	彈藥適否員數	火箭及適否員數	焰管及適否員數	發火信號器製造人氏名	販賣人住所氏名	記事

廳府縣名　印

本船定繫場名	船主本籍氏名	船頭本籍氏名	舷燈番號及種類	船燈製造人氏名	舷燈白燈及隔板適否	發火信號器製造人氏名	火箭或ハ焰管適否	號角、號鐘及N・C・旗適否	改部之分	記事

丙號

明治年自月至月
船燈信號器監査報告書

監査月日	監査地名	船名	積高	木船定繫場名	船主氏名	船頭氏名	船燈製造人名	舷燈種類及番號	舷燈白燈及隔板適否	發火信號器製造人氏名	火箭或ハ號角號鐘及焰管適否	N.C旗適否	摘要

廳府縣名　印

●肥前國長崎ヘ司檢場ヲ設置シ取扱事務ヲ定ム

明治二十年四月
遞信省告示第七十四號

肥前國長崎ヘ司檢所ヲ設置シ左ノ事務ヲ取扱ハシム但開廳ノ日限ハ追テ告示ス

一海員技術試驗
一船舶檢査

●神戸司檢所ヲ閉止シ其事務ハ大阪司檢所ニテ取扱ハシム

明治二十年八月
遞信省告示第百四十三號

神戸司檢所本月三十日限リ閉止シ同所事務ハ大阪司檢所ニ於テ取扱ハシム

●船舶積量改測未濟ノ分ハ結了セシム

明治二十年十二月
遞信省訓令第七號
北海道廳　府縣

船舶積量改測期限ノ儀ニ付テハ明治十七年九月農商務省第二十九號達ノ旨モ有之候處今以テ改測未濟ノ地方有之右ハ此際速ニ結了候樣致スヘシ尤モ自然航海等ノ爲メ船籍外ノ地ニ繫留シテ歸港セサル船舶有之候ハヽ其旨ヲ船籍地ノ地方廳ヨリ繫留地ノ地方廳ニ通知シ繫留地ノ地方廳ニ於テ改測結了候樣取計フヘシ

但一周歲用紙拂下高ハ別表書式ニ倣ヒ調製ノ上翌年度十二月三十日限リ當省ヘ報告スヘシ

別表書式

明治何年度中西洋形船海員雇入雇止證書用紙受拂明細表　　廳名

種別	越高	受取高	小計	拂下高	拂下代金	徵收代支拂高	殘高
大形雇入證書用紙							
小形雇入證書用紙							
雇止證書用紙							
總計							

●內外國航船ニ係ル海上氣象報告方

明治二十一年十二月
內務省令第十一號

明治十九年遞信省令第四號第六條ニ揭クル內國航船外國航船ニ限リ來明治二十二年一月一日ヨリ左ノ雛形ニ據リ毎月海上氣象表ヲ製シ中央氣象臺ニ報告ス可シ

海上氣象報告雛形

上氣象報告　船名　丸　船長　自　至

晴雨計 示度	晴雨計 附寒暖計	寒暖計 乾球	寒暖計 濕球	雲 方向 上層	雲 方向 下層	雲 量	天氣	波濤 方向	波濤 高サ	海水 溫度	海水 重量	潮流 方向	潮流 速度	雜記

一尺二寸五分

風 力	風 方向	本船所在 緯度	本船所在 經度	時 時刻	日 日次

明治 年 月 海

八寸四分五厘

●西洋形船船長運轉手機關手水火夫等現員報告書式及差出期限ヲ定ム

明治二十二年五月
遞信省訓令第一號

北海道廳 府縣

每年十二月三十一日ニ於ケル西洋形船々長運轉手機關手水火夫等ノ現員ハ明治二十二年以降左ノ報告書式ニ依リ調査シ翌年二月末日迄ニ當省ヘ差出スヘシ

但明治十八年三月第八號海軍農商務兩卿連署達ハ自今廢止ス

報告書式

明治 年十二月三十一日調

船名	船主族籍氏名	免狀種類番號	船長以下職務	族籍氏名	一箇月給料	雇入年月日	水夫以下職名	人員
		甲乙種船長若クハ小形船々長免狀第 號	船長	何府縣士族平民 何誰	何圓	年月日	水夫長	何人
		甲乙種一等運轉手免狀第 號	運轉手	同	同	同	舵夫	同
何丸	何府縣華士族平民 何誰 若クハ會社名	甲乙種二等運轉手免狀第 號	同	同	同	同	水夫	同
		甲乙種一等機關手免狀第 號	機關手	同	同	同	油差	同
		甲乙種二等機關手若クハ小形船機關手免狀第 號	同	同	同	同	火夫	同

以下右ノ振合ニ倣ヒ各船每乗組人員ヲ列記シ且外國人ハ氏名欄內ニ其國名ヲ記入スヘシ

●船主横須賀鎭守府造船部ニ於テ所有船舶ヲ入渠若クハ修理セントスル者出願方

明治二十二年六月
海軍省告示第七號

船主横須賀鎭守府造船部ニ於テ所有船舶ヲ入渠若クハ修理セントスルトキハ入渠ト修理トノ別ニ随ヒ左ニ掲クル事項ヲ願書ニ明載シ該造船部ヲ經テ横須賀鎭守府司令長官ニ願出可シ

入渠願書ニ記載スヘキ事項

一　船名　一　長サ　一　幅　一　深
一　喫水前後　一　推進器種類
一　舵及スクルーシヤフト抜方ヲ要スル工事ノ有無
一　船底ノ形狀普通ナラサルトキハ其形狀
一　滯渠ノ概定日數
一　入渠ノ目的船底掃除又ハ塗方ノ類
右ノ外入渠ニ必要ト思考スル事項ヲ記ス可シ
修理願書ニ記載スヘキ事項
一　船名
一　修理箇所及其要點

（參照）明治十二年第十九號布告ハ二十三年十月勅令第二百十九號船籍規則制定ニ付廢止

●西洋形船舶免狀ヲ船内ニ保存セシム

明治二十二年十月
遞信省訓令第四號

北海道廳　府縣

西洋形船々免狀ハ明治十二年第十九號布告ニヨリ航海公證ヲ廢シ授與スルモノ故外國航ノ船舶ハ勿論内國航通ノモノト雖モ各船其船内ニ保存スヘキモノナルニ往々船主ノ許ニ留置船内ニ所持セサルモノ有之不都合ニ付自今右等ノ所爲無之樣管下西洋

形船持主ヘ懲篤説諭スヘシ

●船籍規則制定

明治二十三年十月
勅令第二百十九號

朕船籍規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

船籍規則

第一條　日本船舶ハ西洋形日本形ヲ問ハス總テ船籍港ヲ定メ其地市町村役場若クハ浦役場ノ船籍ニ編入スヘシ

第二條　船籍ニ編入セントスルトキハ國内ニ於テハ地方官廳國外ニ於テハ領事館ニ願出テ其積量ノ測度ヲ受クヘシ

第三條　入籍シタル船舶ニシテ登簿噸數十五噸以上ノ西洋形船百五十石以上ノ日本形船ナルトキハ遞信省ニ船籍證書ノ交付ヲ願出ツヘシ

第四條　船籍證書ニハ左ニ記載シタル條件ヲ記シ且年月日ヲ記スヘシ但日本形船ニ在テハ第一項ノ信號符字及ヒ第八項乃至第十七項ヲ除キ其石數ヲ記シ西洋形帆船ニ在テハ第十三項乃至第十七項ヲ除ク

第一項　船舶ノ番號信號符字

第二項　船名、原名

第三項　船籍港名、管轄廳名
第四項　甲板ノ層數、檣ノ數、索具ノ裝置、船體ノ材料、船骨ノ材料、船首ノ形狀、船尾ノ形狀
第五項　造船工長ノ氏名、製造年月日、製造地名
第六項　船主ノ氏名住所（會社其他ノ法人若クハ二人以上ノ所有ニ係ルトキハ會社名若クハ管理人ノ氏名）
第七項　船舶ノ長、幅及ヒ深
第八項　量噸甲板下部ノ噸數
第九項　量噸甲板上諸部ノ噸數
內譯
甲板間ノ噸數
船尾室ノ噸數
圓室ノ噸數
其他諸室ノ噸數
第十項　總噸數
第十一項　登簿噸數

第十二項　乘組人常用室ノ噸數
第十三項　機關室ノ噸數
第十四項　機關ノ種類及ヒ數
第十五項　汽罐ノ種類及ヒ數
第十六項　推進器ノ種類
第十七項　公稱馬力

第五條　新造若クハ改造シタル船舶又ハ外國人ヨリ取得シタル船舶ノ假證書ハ前條第一項ヲ除キ船舶ノ種類ニ從ヒ其他ノ諸件ヲ記スヘシ

第六條　同一ノ船舶ニシテ再度以上假證書ノ交付ヲ受ケタル場合ト雖モ其効力ハ初度ノ證書ニ記載シタル年月日ヨリ起算シ商法第八百三十條第二項ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條　船籍證書ノ交付ヲ願出ツルトキハ手數料トシテ本證書ハ壹圓假證書ハ五拾錢ヲ納ムヘシ

第八條　船籍證書ハ常ニ船內ニ保持シテ船長之ヲ監守シ稅關官吏、司檢官、警察官、領事其他正當職權アル者ニ於テ檢閱ヲ要スルトキハ何時ニテモ之ヲ開示スヘシ

第九條　船籍證書ヲ受有スル西洋形船ハ左ノ事項ヲ銘記シ且其事項ニ變更ヲ生シタ

ルトキハ其都度之ヲ改記スヘシ

第一項　船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及ヒ船籍港名ヲ方三寸五分以上ノ國字竝羅馬字ヲ以テ記スヘシ

第二項　中央ノ船梁ニ船籍證書ノ番號及ヒ登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ該番號噸數ヲ彫刻シタル板ヲ固釘スヘシ

第三項　船首材及ヒ船尾材ノ外部兩側面ヘ水脚ヲ示ス爲メ一尺毎ニ方五寸ノ羅馬又ハ亞剌比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記スヘシ

第十條　船籍證書ヲ受有スル日本形船ハ船尾ニ船名、船梁ニ船籍證書ノ番號及ヒ石數ヲ記スヘシ

第十一條　船舶所有者船籍港ニ居住セサルトキハ本船ニ關スル事務ヲ代辨セシムル爲メ其船籍港ニ代理人ヲ置キ之ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ届出ツヘシ

第十二條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船籍面ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ

第十三條　船籍港ヲ移轉シタルトキハ原籍ヲ削除シ移轉地ノ船籍ニ編入シ且船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ

第十四條　船舶ノ所有權ヲ他人ニ移轉シタルトキハ其旨ヲ市町村役場若クハ浦役場

ニ申出且船籍證書ヲ返納スヘシ

第十五條　船舶ノ破壞、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキ若クハ日本船舶タルノ資格ヲ失ヒタルトキハ本船ノ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ返納スヘシ

第十六條　本規則第八條乃至第十五條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十七條　明治十二年五月第十九號布告ニ依リ付與セシ西洋形船登簿船免狀ハ此規則施行ノ日ヨリ船籍證書ト見做シ本證書ト同一ノ効力ヲ有ス

第十八條　明治三年正月布告商船規則同十二年二月第五號布告同年五月第十九號布告同十四年二月第十二號布告其他從前ノ成規中此規則ニ抵觸スルモノハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　此規則ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

●船籍證書ヲ要セサル船舶報告方設定

明治二十三年十一月遞信省訓令第六號

北海道廳　府縣

來明治二十四年ヨリ船籍證書ヲ要セサル船舶報告ノ件左ノ通定ム

但明治十五年六月農商務省第十一號達同十六年十月同省第十三號達同十九年四月遞信省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

一船籍證書ヲ要セサル西洋形船並日本形船（五十石未滿ハ除ク）ハ毎年十二月三十一日ノ現數ヲ第一號及第二號書式ニ依リ翌年二月十五日限リ當省ヘ報告スヘシ

一前項ノ船舶ニシテ新造、解撤、賣買ニ係リタル員數ハ毎一箇年分取纏メ第三號及第四號書式ニ依リ前項ト同時ニ當省ヘ報告スヘシ

（書式第一號）

船籍證書ヲ要セサル西洋形船舶表（十二月三十一日現數）

船名	船籍港	船質	檣數	索具ノ製置	尺度 長	尺度 幅	尺度 深
何々丸	何國何郡何港又ハ何町村	鐵又ハ木	何本	ブリック、スクーナー、カッター、スループ等	曲尺何尺何寸	同	同

製造地名	製造年月	總噸數	登簿噸數	公稱馬力	船主氏名	船主族籍住地
何國何郡何市何町村又ハ何地造船所	何年何月	何噸	何噸	何馬力	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何國何郡何市何町村何番地

（風帆船ハ馬力ノ項ニ斜線ヲ施スヘシ）

（書式第二號）

船籍證書ヲ要セサル日本形船舶表（十二月三十一日現數）

石數區別	艘數	積石數
五十石以上五十石（以上石數ヲ異ニスル毎ニ別記スヘシ）	何艘	何石
百石未滿	〃	〃
計	〃	〃

百石以上百五十石未滿（同前）	計	何艘	何石
〃		〃	〃
〃		〃	〃
百五十石以上（船籍證書ヲ要セサルモノ）（同前）	計	何艘	何石
〃		〃	〃
〃		〃	〃
合計	計		

（書式第三號）

船籍證書ヲ要セサル西洋形船新造、解撤、賣買員數表（毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル）

新造ノ部

船名	登簿噸數	公稱馬力	製造年月	船主住所	氏名
何々丸	何噸	何馬力	何年何月	何國何郡何市何町村何番地	何ノ誰ヲハ會社若クハ管理人ノ氏名

解撤ノ部

船名	登簿噸數	公稱馬力	解撤年月	船主住所	氏名
何々丸	何噸	何馬力	何年何月	同前	同前

買入ノ部

船名	登簿噸數	公稱馬力	賣主氏名	買入年月	船主住所	氏名
何々丸（改稱シタルモノハ其舊名ヲ併記スヘシ）	何噸	何馬力（外國人ハ其國名氏名、內國人ハ其貫籍氏名）		何年何月	同前	

賣却ノ部

船名	登簿噸數	公稱馬力	買主氏名	賣却年月	船主住所	氏名
何々丸	何噸	何馬力（外國人ハ其國名氏名、內國人ハ其貫籍氏名）		何年何月	同前	同前

（風帆船ハ馬力ノ項ニ斜線ヲ施スヘシ）

（書式第四號）

船籍證書ヲ要セサル日本形船（五十石未滿ヲ除ク）新造、解撤、員數表（毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル）

新造		解撤	
船數	石數	船數	石數
何艘	何石	何艘	何石

●船籍規則施行細則設定

明治二十三年十一月
遞信省令第二十號

船籍規則施行細則左ノ通リ相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

船籍規則施行細則

第一條　船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シタル者ハ其種類ニ從ヒ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ作リ本船々籍港所轄ノ市町村役場又ハ浦役場ヲ經テ本船ノ測度ヲ地方官廳ニ願出テ且同時ニ該役場ヘ船籍ノ編入ヲ請ヘシ

第二條　市町村役場又ハ浦役場ニ於テハ前條ノ件名書ヲ調査シ五十石未滿ノ日本形船ハ其事項ヲ直チニ役場ノ船籍臺帳ニ登錄シ其他ノ船舶ハ件名書ヲ地方官廳ニ送達シ其積量ノ測度ヲ申請スヘシ

第三條　地方官廳ニ於テハ船舶積量測度規則ニ從ヒ之ヲ測度シ第三號若クハ第四號書式ノ測度表ニ依リ其積量ヲ算出シ第五號若クハ第六號書式ノ測度證書ヲ作リ件名書ヲ照査シ前條ノ市町村役場又ハ浦役場ヘ送付スヘシ

測度證書及ヒ件名書ヲ受領シタル市町村役場又ハ浦役場ニ於テハ測度證書及ヒ件名書ニ依リ其事項ヲ船籍臺帳ニ登錄スヘシ

第四條　前條ノ船舶ニシテ船籍證書ヲ受有スヘキモノナルトキハ更ニ市町村長又ハ浦役人ノ奥書ヲ受タル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シテ船籍證書ノ交付ヲ遞信省ニ願出ヘシ但左記ノ船舶ハ船籍證書ヲ受有スルノ限ニアラス

一國內水上ヲ運航スル船舶

一端舟其他艤櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ艤櫂ヲ以テ運轉スル舟

第五條　地方官廳ニ於テハ前條ノ願書及ヒ件名書ニ測度表ヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ進達スヘシ

第六條　遞信省ニ於テハ件名書及ヒ測度表ヲ調査シ其船舶ノ種類ニ從ヒ第七號第八號若クハ第九號書式ノ船籍證書ヲ作リ之ヲ地方官廳ニ送付シ地方官廳ハ市町村長又ハ浦役人ヲシテ之ヲ船主ニ交付セシムヘシ但第十一條ニ係ル船舶ニ交付スヘキ船籍證書ハ遞信省ヨリ直ニ領事館ニ送付シ其旨ヲ船籍地方官廳ニ通知スヘシ

第七條　船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ地方官廳又ハ領事館ニ本船ノ測度ヲ請ヒ且假證書ノ交付ヲ願出ヘシ但本船々籍港ニ到著シタルトキハ速ニ第一條及ヒ第四條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　前條ノ願書ヲ受領シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ第三條ノ手續ニ由リ其積量ヲ算出シ直ニ第十號第十一號若クハ第十二號書式ノ假證書ヲ作リ之ヲ願人ニ交付シ且同時ニ其證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ヲ本船々籍港地方官廳ニ送付スヘシ

第九條　假證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ノ送付ヲ受ケタル地方官廳ニ於テハ本船々籍港ニ到著ノ上其測度ヲ願出タルトキ送付ノ測度表ヲ調査シ正確ナリト認ムルトキ更ニ測度ヲ要セス直チニ測度證書ヲ作リ件名書ト共ニ市町村役場又ハ浦役場ニ送付スヘシ

第十條　內國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ若クハ船籍ヲ移轉シタルトキハ測度ヲ除クノ外第一條ノ手續ニ依リ其入籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ市町村長又ハ浦役人ノ奧印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シ其證書ノ交付若クハ書換ヲ遞信省ヘ願出ヘシ

第十一條　外國ニ於テ船舶ヲ製造シ又ハ他人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ單ニ外國地方ヲ航海シ本國ニ迴船セサル者ハ其事由ヲ具シタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ本船所在地ノ領事館ニ其測度ヲ願出ヲ同館ヨリ交付ノ測度證書ヲ本船々籍港ニ送付シ第一條ニ依リ其入籍ヲ請フヘシ但シ船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ本證書到達迄ノ間領事館ヨリ假證書ヲ願受ルヲ得ヘシ

領事館ニ於テハ第三條ノ手續ニ依リ其積量ヲ算出シ測度證書ヲ願人ニ交付シ且同時ニ本船件名書測度表ヲ其船籍地方官廳ニ送付スヘシ但假證書ヲ願出タルトキハ第八條ノ手續ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第十二條　船籍港外ニ於テ船籍證書ヲ受有シタル船舶ノ所有權ヲ取得シタルトキハ測度ヲ除クノ外第七條ノ手續ニ依ルヘシ

第十三條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ市町村役場又ハ浦役場ニ船籍ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有シタル者ハ市町村長又ハ浦役人ノ奧印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ地方官廳ヲ經由シテ其證書ノ書換ヲ遞信省ヘ願出ヘシ但積量ノ變更ニ係ルトキハ更ニ測度ヲ受ケタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條　船籍證書又ハ假證書ヲ喪失若クハ毀損シタルトキ船籍港ニ於テハ其事由ヲ具シタル願書ニ市町村長又ハ浦役人ノ奧印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ其船籍證書ノ再渡若クハ書換ヲ遞信省ヘ願出ヘシ

船籍港外ニ於テハ其事由ヲ具シ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ直チニ本船所在地ノ地方官廳又ハ領事館ヘ假證書ノ交付ヲ願出ヘシ

第十五條　前條ニ依リ假證書ヲ交付シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ其事由ヲ詳記シ件名書及證書ノ謄本ヲ添ヘ速ニ本船々籍港ノ地方官廳ヘ通報スヘシ

第十六條　船籍規則第十五條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シ浦役場ニ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有シタル者ハ地方官廳ヲ經由シ之ヲ遞信省ヘ返納スヘシ但假證書ナルトキハ其發出ノ官廳ヘ返付スヘシ

第十七條　船籍證書又ハ假證書ノ交付ヲ願出ル者ハ初渡、再渡、書換ヲ問ハス出願ノ際船籍規則第七條ニ揭クル手數料ヲ上納スヘシ

附則

第十八條　明治十二年五月二十一日內務省丙第二十五號達ハ此細則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條　現在ノ船舶ハ此細則施行ノ爲メ更ニ積量ノ測度ヲ要セス從來ノ噸數石數ニ依ル

（第一號）　西洋形船件名書

第一　船名汽船何丸帆船何丸

第二　船籍港　何國何郡何港又ハ何町村

第三　本船管轄廳名　縣府縣名

第四　甲板ノ層數　何層

第五　船體ノ材料　木製又ハ鐵製

第六　船骨ノ材料　木製又ハ鐵製

第七　檣ノ數　何本

第八　索具ノ裝置　シップ、バーク、バークンタイン、ブリック、ブリガンタイン、スクーナー、カッター、スループ等

第九　船首ノ形狀　斜形又ハ直立

第十　船尾ノ形狀　圓形又ハ方形

第十一　製造地名　何國何郡何市何町村又ハ何地何造船所（外國ノ地名ハ外國文字ニテ記スヘシ）

第十二　製造年月　何年何月

第十三　造船工長氏名　宿所氏名（外國人ナラハ外國文字ニテ記スヘシ）

第十四　船ノ原名　最初製造シタルトキノ名（外國ヨリ購入ノモノハ外國文字ニテ記スヘシ）

第十五　船主ノ氏名　會社其他ノ法人若クハ二人以上ノ所有ニ係ルトキハ會社名若クハ管理人ノ氏名住所ヲ記スヘシ

第十六　船ノ長　上甲板上ニテ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ

第十七　船ノ幅　本船中央ノ正甲板上面ニテ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ

第十八　船ノ深　正甲板ノ下面ヨリ船底中央ノ內板ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ

第十九　最噸甲板下部ノ噸數　何噸

第二十　量噸甲板上諸部ノ噸數　何噸

內譯

甲板間ノ噸數　何噸

船尾室ノ噸數　何噸

囲室ノ噸數　何噸

船首室廚室等都テ蔽圍セシ場所ノ噸數　何噸

第二十一　總噸數　何噸

第二十二　登簿噸數　何噸

第二十三　乘組人常用室ノ噸數　何噸

第二十四　機關室ノ噸數　何噸

第二十五　機關ノ種類及ヒ數　重聯成機關、聯成併動冷汽機關、單動冷汽機關、併働冷汽機關等何箇

第二十六　汽罐ノ種類及ヒ數　筩形、方形等何箇

第二十七　汽筩ノ數及內徑　高壓何箇低壓何箇徑何寸(英寸ニテ記スヘシ)

第二十八　機關動輪ノ長　何寸(英寸ニテ記スヘシ)

第二十九　推進器ノ種類　外車、暗車又ハ雙暗車

第三十　公稱馬力　何馬力

第三十一　船價　何圓　取得シタルモノハ其代價贈與ニ係ルモノハ其見積代價

第三十二　本船ヲ取得シタル場所　何國何郡何港又ハ何町村

第三十三　本船前所有主ノ氏名

右項目中船名地名氏名ハ詳細ニ假名ヲ附スヘシ

(第二號)　日本形船件名書

第一　船名　何丸　船名ヲ付セサル小舟ハ漁船、解船、傳馬船等其所用名ヲ記スヘシ

第二　船籍港　何國何郡何港又ハ何町村

第三　本船籍艦名　鎮府縣名

第四　船ノ原名　最初製造シタルトキノ名

第五　檣ノ數　何本　船ノ長　船首材ノ外部ヨリ船尾柁柄ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ　船ノ幅　中央船梁ニ沿ヒ外板ヨリ外板ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ　船ノ深　中央船梁上面ヨリ船底ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ

第六　製造地名　何國何郡何市何町村又ハ何地何造船所

第七　製造年月　何年何月

第八　船主ノ氏名

第九　積石數　何石　五十石未滿ノモノハ積石數ヲ記スルニ及ハス舳梁ヨリ艫梁ニ至ルノ尺度ヲ記スヘシ

第十　船價　何圓　取得シタルモノハ其代價贈與ニ係ルモノハ其見積代價

第十一　本船ヲ取得シタル場所　何國何郡何港又ハ何町村

第十二　本船前所有主氏名

右項目中船名氏名ハ詳細ニ假名ヲ附スヘシ

量噸甲板上甲板間ノ噸數

甲板間ノ長＝
分長點間隔＝

番號及點	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	2		
4	4		
5			
9			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

合計＝

分長點間隔 三分ノ一 ＝

橫截面積＝

分長點ニ於ル平均ノ高 ＝

甲板上諸室ノ積量

第一號

內側ノ長＝
分長點間隔＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
分長點間隔 三分ノ一 ＝
平均ノ高＝

第二號

內側ノ長＝
分長點間隔＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
分長點間隔 三分ノ一 ＝
平均ノ高＝

第三號

內側ノ長＝
分長點間隔＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
分長點間隔 三分ノ一 ＝
平均ノ高＝

第四號

內側ノ長＝
分長點間隔＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
分長點間隔 三分ノ一 ＝
平均ノ高＝

第五號

內側ノ長＝
分長點間隔＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
分長點間隔 三分ノ一 ＝
平均ノ高＝

甲板上諸室噸數

一號＝
二號＝
三號＝
四號＝
五號＝
號＝
號＝

合計＝

(第三號)　(二)

機關室ノ積量

第一號

平均ノ長＝
同深＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
平均ノ長 六分ノ一 ＝
平均ノ深＝

第二號

平均ノ長＝
同深＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
平均ノ長 六分ノ一 ＝
平均ノ深＝

第三號

平均ノ長＝
同深＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
平均ノ長 六分ノ一 ＝
平均ノ深＝

第四號

平均ノ長＝
同深＝

番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	1		

合計＝
平均ノ長 六分ノ一 ＝
平均ノ深＝

第一號
第二號
第三號
第四號
號
號
} 合計＝
除數(100)

機關室ノ割合 100　　噸數＝

量噸甲板下部ノ噸數

量噸甲板上部ノ噸數
- 甲板間ノ場所
- 船首室
- 船尾室
- 囲室
- 其他ノ場所

總噸數＝

除去スヘキ噸數

乘組人常用室噸數 ……
機關室ノ噸數 ……
} ＝合計

登簿噸數＝

測度員官氏名

西洋形船　測度表

（第三號）

船名	船ノ長	船ノ幅	船ノ深
丸			

甲板上測度ノ長	甲板ノ厚	船首傾度ニ對スル距離	船尾傾度ニ對スル距離	船尾船梁ノ矢三分ノ一	本船測度ノ長	長等分數	同分長點間隔

分長點番號	1	2	3	4	5	6	7	8	6	10	11	12	13
分長點最大ノ深													
船梁ノ矢三分ノ一													
船底内板ノ厚													
矢三分ノ一並ニ其他減スヘキ數													
分長點ニ於ル測度深													

本船中央ノ深十六尺ニ付ニ除ス

分深點間隔															
分深點番號	乘數	幅	得數	幅	得數	幅	得數	幅	得數	幅	得數	幅	得數	幅	得數
1	1														
2	4														
3	2														
4	4														
5															
6															
7															
合數															
分深點間隔三分ノ一															
横裁面積															

分長點番號	乘數	横裁面積	積
1	1		
2	4		
3	2		
4	4		
5	2		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

合計＝

分長點間隔三分ノ一＝

昼噸甲板下部立方積＝

噸數＝

日本形船

船名	船ノ長	船ノ
丸		

分長點番號	1	2	3	4	5	6
分長點ニ於ル深						

分長點ニ於ル深サ　　箇ニ等分ス

分長點番號	幅	幅	幅	幅	幅	幅
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
合數						
平均ノ幅						

測度表

（第四號）

幅	船ノ深	船艙下部ノ長

7	番號	分長點ニ於ル平均幅	船艙上部			
	1		高	1		平均ノ高ニ
	2			2		
	3			3		
	4		幅	1		平均ノ幅ニ
幅	5			2		
	6			3		
	7					
	合數					
	船艙下部ノ長ニ		平均ノ長ニ 立方積ニ			
	同上下部平均ノ深ニ		船艙上部石數ニ 船艙下部石數ニ			
	立方積ニ		總石數ニ 測度員官氏名			

（第五號）

西洋形船

船名	船籍港	本船管轄區名	船體材料	甲板ノ層數	檣ノ數

船尾ノ形狀	索具ノ裝置	造船工長	船主	測度ノ地名

測度證書

製造地名	製造年月	尺度	積量
		船ノ長 船ノ幅 船ノ深	量噸甲板下部ノ噸數 量噸甲板上諸部ノ噸數 內譯 甲板間ノ場所 四室 船首室 船尾室 其他ノ場所 總噸數 除去ノ噸數 機關室 乘組人常用室 登簿噸數

推進器ノ種類	公稱馬力

船籍規則第二條ニ據リ本船測度ノ上此證書ヲ付與スル者也

明治　年　月　日

廳府縣領事館測度員官氏名

（第六號）

日本形船測度證書

船名	船籍港	本船管轄廳名	製造地名	尺度	船ノ長 船ノ幅 船ノ深	製造年月	造船工長

積量　何石內
船艙上部ノ石數
船艙下部ノ石數

船主

船籍規則第二條ニ據リ本船測度ノ上此證書ヲ付與スル者也

明治　年　月　日

廳府縣領事館測度員官氏名

（第七號）

汽船船籍證書

本船番號	信號符字	船名	船籍港	本船管轄廳名	甲板層數ノ	檣ノ數	索具ノ裝置	船體ノ材料	船骨ノ材料		

船首ノ形狀	船尾ノ形狀	本船原名	造船工長	製造年月及ヒ地名	機關ノ種類及ヒ數	汽罐ノ種類及ヒ數	推進器ノ種類	公稱馬力	船主		

尺度

上甲板上ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル長

船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル幅

船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底內板ニ至ル深

噸數

量噸甲板下部ノ噸數
量噸甲板上諸部ノ噸數
甲板間內譯ノ場所
船尾室
圓室
其他ノ場所
總噸數
除去ノ噸數
機關室
乘組人常用室
登簿噸數

右ニ記載スル要件ヲ査明シ船籍原簿ヘ登記ノ上此證書ヲ付與スル者也

年　月　日　　逓信省

（第八號）

帆船船籍證書

本船番號	信號符字	船名	船籍港	本船管轄廳名	甲板ノ層數	檣ノ數	索具ノ裝置	船體ノ材料

船骨ノ材料	船首ノ形狀	船尾ノ形狀	本船原名	造船工長	製造年月及ヒ地名	船主

尺度

上甲板上ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル長

船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル幅

船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底內板ニ至ル深

噸數

甲噸甲板下部ノ噸數

乙噸甲板上諸部ノ噸數

內譯

甲板間ノ場所

船尾室

四室

其他ノ場所

總噸數

除去ノ噸數

乘組人常用室

登簿噸數

右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍原簿ヘ登記ノ上此證書ヲ付與スル者也

年　月　日　　遞信省

（第九號）

日本形船船籍證書

本船番號	船名	船籍港	本船管轄廳名	檣ノ數	製造年月及ヒ地名	本船原名	造船工長	船主

尺度

船首材ノ外部ヨリ船尾柁柄ニ至ル長

中央船梁ニ沿ヒ外板ヨリ外板ニ至ル幅

中央船梁上面ヨリ船底ニ至ル深

石數

何石

內

船艙上部ノ石數

船艙下部ノ石數

右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍原簿ヘ登記ノ上此證書ヲ付與スル者也

年　月　日　　遞信省

（第十號）

汽船
假船籍證書

船名	船籍港	本船舊轄廳名	甲板ノ層數	檣ノ數	索具ノ裝置	船體ノ材料	船骨ノ材料	船首ノ形狀

船尾ノ形狀	本船原名	造船工長	製造年月及ヒ地名	機關ノ種類及ヒ數	汽罐ノ種類及ヒ數	推進器ノ種類	公稱馬力	船主

尺度
上甲板上ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル長
船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル幅
船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底内板ニ至ル深

噸數
量噸甲板下部ノ噸數
量噸甲板上諸部ノ噸數
内譯
甲板間ノ場所
船尾室
圓室
其他ノ場所
總噸數
除去ノ噸數
機關室
乘組人常用室
登簿噸數

右ニ記載スル要件ヲ査明シ船籍規則第五條ニ依リ此假證書ヲ付與ス但此證書ハ明治　年　月　日ヲ限リ無効タルヘシ

年　月　日

廳府縣
日本領事館

（第十一號）

帆船
假船籍證書

船名	船籍港	本船舊轄廳名	甲板ノ層數	檣ノ數	索具ノ裝置	船體ノ材料	船骨ノ材料

船首ノ形狀	船尾ノ形狀	本船原名	造船工長	製造年月及ヒ地名	船主

尺度
上甲板上ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル長
船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル幅
船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底内板ニ至ル深

噸數
量噸甲板下部ノ噸數
量噸甲板上諸部ノ噸數
内譯
甲板間ノ場所
船尾室
圓室
其他ノ場所
總噸數
除去ノ噸數
乘組人常用室
登簿噸數

右ニ記載スル要件ヲ査明シ船籍規則第五條ニ依リ此假證書ヲ付與ス但此證書ハ明治　年　月　日ヲ限リ無効タルヘシ

年　月　日

廳府縣
日本領事館

（第十二號）

日本形船

假船籍證書

船名	船籍港	本船籍ノ所在地名	製造年及ヒ地名	檣ノ數	本船原名	造船工長	船主

尺度

船首材ノ外部ヨリ船尾柁柄ニ至ルノ長

中央船梁ニ沿ヒ外板ヨリ外板ニ至ルノ幅

中央船梁上面ヨリ船底ニ至ルノ深

何　石數

內

船艙上部ノ石數

船艙下部ノ石數

右ニ記載スル要件ヲ査明シ船籍規則第五條ニ依リ此假證書ヲ付與ス但此證書ハ明治　年　月　日ヲ限リ無効タルヘシ

年　月　日　廳府縣　日本領事館

●船籍規則施行延期

明治二十三年十二月　勅令第二百九十六號

朕船籍規則ノ施行延期ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本年十月勅令第二百十九號船籍規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

●船籍規則施行細則施行延期

明治二十三年十二月　遞信省令第二十四號

本年十月勅令第二百十九號船籍規則施行期限發布相成候ニ付テハ本年十一月　當省令第二十號船籍規則施行細則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

●船籍證書ヲ要セサル船舶報告施行期限

明治二十三年十二月　遞信省訓令第九號

北海道廳　府縣

本年十一月十五日當省訓令第六號船籍證書ヲ要セサル船舶報告ノ件ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

但明治二十五年十二月三十一日迄ハ從前ノ通リ當省ヘ報告スヘシ

○輸出入港

●海關輸出入荷物取扱條例

明治六年六月
布告第二百十號

內國人民一般並御雇外國ニ至ル迄海關輸出入荷物取扱條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事

（別冊）

海關輸出入荷物取扱條例

第一　官省使寮司及府縣官員並留學生徒ニ至ル迄政府ノ命ヲ奉シ海外ニ航旅スル者公用ノ荷物並本人相當ノ旅具ヲ除クノ外輸出入共商品同樣一般收稅スヘシ

第二　前款ニ揭クル官員並留學生徒發着ノ前後輸出入又ハ他邦滯留中送致セル貨物等無稅通關スヘキ旨大藏省ノ證書無之分ハ商品同樣一切收稅スヘシ

第三　華士族ヨリ平民ニ至ル迄商業或ハ留學遊歷等ノ爲メ自費ヲ以テ海外ヘ渡航スル者荷物輸出入ノ際本人相當ノ旅具ヲ除クノ外一切収稅スヘシ

但相當旅具免稅ノ荷物ヲ定ムルハ稅關官吏ノ意見ニシテ本人之ヲ取捨增減スルコトヲ得ヘカラス

第四　官省使寮司及府縣ニ於テ雇役ノ外國人自用品其自國又ハ他國ヨリ取寄セ或ハ御國產ヲ其本國ヘ差送ル分トモ自今約定書中自用品無稅通關可差許旨ノ明文無之分ハ輸出入トモ商品同樣收稅スヘシ

但向後外國人傭入ノ節有稅ノ自用品ハ輸出入トモ免稅致スヘキ旨條約面ニ記載スヘカラス

第五　前條ニ揭クル外國人來着又ハ滿期歸國ノ節輸出入ノ荷物本人相當ノ旅具ヲ除クノ外商品同樣收稅スヘシ

●官用物品輸出手續

明治七年十二月
（太政官）達第百六十七號

院省使廳府縣

在外國我公使領事館備品其他各國政府ヘノ贈答品等都テ官用ニ屬スル物品輸出ノ節ハ左ノ書式ニ照準シ證書ヲ認輸出ノ港稅關ヘ可差出尤其物品或ハ箇數斤量等證書ト相違シ稅關ニ於テ疑敷見認ルトキハ更ニ檢查ノ上不當ノ品ハ通關不差許候條此旨相達候事

証

一記號　番號
一箇數幾　捆桶箱俵
一品名　何

一斤量　何程
一元價　何程

右ハ在何國我何廳何々ニ供シ候爲メ或ハ何國政府ヘノ贈答品何國何號船ヲ以テ何國何某ヘ可差送官用品ニ相違無之候間無稅ニテ輸出被差許度此段及御掛合候也

年　號　月　日　院省使廳府縣長次官印
何港稅關宛

●官用物品輸入手續

明治八年八月（太政官）達第百四十五號

各廳ニ於テ外國ヘ注文ノ官用品輸入ノ節ハ該廳長次長ノ證書ヲ以テ無稅通關差許スヘシ旨明治六年二月第四十九號ヲ以テ相達置候處來明治九年一月一日ヨリ都テ定則ノ通收稅候條物品受取ノ爲メ出張ノ官員ヨリ左ノ雛形ノ通證書相認稅關ヘ可差出此旨相達候事

證

一記號　番號
一箇數　（梱桶箱俵）

一品名　何
一斤量　何程
一元價　何程
一稅金　何程

右ハ當院省使廳府縣何々ニ供候爲メ何國ヘ注文ノ品今般何國何號船ニテ何國何某當港ヘ向ケ輸入候條一般輸入ノ手數相濟候上ハ物品引取方被差許度候也

年　月　日　某官　某印
何港稅關長官　姓名　殿

●回漕貨物取扱條例

明治八年十二月布告第百八十四號

今般回漕貨物取扱條例左ノ通リ相定メ候條此旨布告候事

回漕貨物取扱條例

第一條　回漕貨物ノ荷造リハ濡沾滅損或ハ漏脫等ノ難ヲ防クヘキ樣務メテ堅固ニシ其品柄又ハ荷造リノ摸樣ニヨリテハ錠鎖或ハ封印スヘシ

第二條　穀物鹽類等ノ俵物酒醬流液ノ樽物等總テ減損漏脫シ易キ物ハ積入ノ時必ス船主貨主ノ間ニ特殊ノ約定ヲ爲スヘシ

第三條　船主ハ荷造ノ粗糙ナルカ錠鎖或ハ封印ナキヲ以テ第一條ノ難ヲ防ギガタシト思惟スルトキハ貨主ヘ其趣ヲ通知シテ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セシメ又第二條ノ物品ヲ托セラルヽトキハ特殊ノ約定ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ訊問スヘシ

第四條　貨主ハ第三條ノ通知或ハ訊問ヲ得ルモ之ヲ堅固ナラシメス或ハ錠鎖封印セス又其約定ヲ爲サヽルトキハ濡沾減損或ハ漏脫等ノ難ヲ運漕中ニ生スルトモ船主ニ對シ其辨償ヲ要スル權利ナカルヘシ

第五條　同漕運賃ハ發船ノ甲地ニ於テ波戸場或ハ船主ノ倉庫等船主ノ其貨物ヲ可受取適當ノ地ト定メタル場所ヨリ着船ノ乙地ニ於テハ波戸場或ハ其船主ノ倉庫等ノ其貨物ヲ可引渡適當ノ地ト定メタル場所迄ノ運送費ヲ稱スル者ニシテ甲乙地ニ於テ其定メタル場所ノ外之ヲ取集メ及ヒ配達スルノ費用ヲモ合スルモノニアラス故ニ其取集及ヒ配達ヲモ船主ニ托スルトキハ貨主ハ同漕本賃ノ外ニ相當ノ取集及配達賃ヲ拂ハザルヘカラス

第六條　前條乙地ニ着船スル時ハ船主ヨリ貨主ニ其貨物ヲ渡スヘキ適當ト定メタル場所ニ於テ何日何時ヲ限リ其貨物ヲ渡スヘキ旨ヲ報告スヘシ若シ貨主ノ都合ニ依リ其日時ヲ過キテ之ヲ受取ラサルトキハ其後ニ至リ危險損害ヲ生スルトモ船主ハ其責ニ任セサルヘシ

但其報告スヘキ日時ハ必ス貨主ノ受取得ヘキ適宜ノ時間ヲ以テスヘシ若シ不適宜ノ時間ヲ以テスル時ハ之ヲ報告セサルト同般ト看做スヘシ然ルトキハ之ニ生スル危險損失ハ船主ノ責ヲ免カルヘカラス

第七條　前條ノ如ク其報告時限ヲ過ルトキハ船主ハ之レニ生スル危險損失ハ其責ニ任セスト雖ヒ必ス危險損失ヲ生セサル樣之レヲ倉庫ニ納メ或ハ番人ヲ附ケ或ハ雨覆等ノ備ヲナシ勉メテ保護ノ手立ヲ爲スヘシ然ルトキハ相當ノ倉庫料番人賃其他之レニ屬スル費用ヲ貨主ヨリ拂ハシムヘシ

第八條　同漕運賃ハ第五條ニ記載セル甲乙約定地ノ全運航賃ナルニ因リ其全運航ヲ畢ヘサル間ハ貨主ハ之ヲ拂フコトヲ拒ムノ理アリ又幾百石何千斤ニ付此運賃若干ト約定セシニ其全量中幾分ノ不足ヲ生スルトキハ貨主ハ其全運賃ヲ拂フコトヲ拒ミ得ヘシ然レトモ其全量幾百俵何千個ヲ運送セシムルモ其一俵一個ニ付運賃幾許ト約定セルトキハ其全量ノ如何ヲ問ハス之ヲ受取リタル俵數箇數ニ就テ約定運賃ヲ拂ハサルヘカラス又封印ヲ檢シ外包ノ異狀ナキヲ以テ之ヲ請取後其包中ノ物品ニ不足或ハ損傷アルトモ其辨償ヲ船主ニ責ルヲ得ヘカラス

第九條　船主ハ其約定ヲ履テ安全ニ其貨物ヲ運送スルヲ本分ノ義務トス故ニ第一條及ヒ第二條ニ遵ヒタル貨物或ハ正ニ請取シ旨ヲ証シタル貨物ノ全數中ニ損害不足ヲ生スル等ノ事アルトキハ其貨物ノ原價ニ從テ之ヲ辨償スヘシ

但海上難船ノ災阨ニ罹ルモノハ危險受負法或ハ海上平均法ノ別種ニ屬シテ此限ニアラス

第十條　運賃ハ船主貨主ノ協議ニ依リテ甲地又ハ乙地ニ於テ受拂フヘシ然レトモ之ヲ乙地ニ於テ受拂フトキハ其貨物ト引換ヘヲ以テスヘシ若シ貨物ヲ請取リタル後其拂ヒ方ヲ怠ルトキハ船主ハ其受取ルヘキ賃額ヘ對シ相當ノ利息ヲ課シテ要請スルヲ得ヘシ

●特別輸出港規則

明治二十二年七月　法律第二十號

朕特別輸出港規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

特別輸出港規則

第一條　帝國臣民米、麥、麥粉、石炭、硫黄ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス

一　伊勢國四日市　一　長門國下ノ關

一　筑前國博多　一　豐前國門司

一　肥前國口ノ津　一　肥前國唐津

一　肥後國三角　一　越中國伏木

一　後志國小樽

第二條　前條輸出事業ニ使用スル爲メ外國船ヲ雇入ントスルトキハ大藏大臣ヘ出願シ外國船雇入免狀ヲ受クヘシ

第三條　特別輸出港ニ於テ船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ外國貿易ノ手續ニ依ルヘシ

第四條　第一條ノ輸出事業ニ使用スル船舶ハ其使用中沿海貿易ヲ爲スコトヲ得ス犯ス者ハ五百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ雇入外國船ニ在テハ尚ホ第二條ノ免狀ヲ取上クヘシ

第五條　本規則ヲ廢止シ又ハ改正スルトキハ六箇月前ニ公布スヘシ

第六條　本規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條　特別輸出諸港ニ於テ本規則施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●長門國下ノ關外三港ニ於テ特別輸出港規則施行

朕特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年八月
勅令第百四號

本年七月法律第二十號特別輸出港規則第七條ニ據リ左ノ諸港ニ於テハ本年八月十五日ヨリ該規則ヲ施行ス

一　長門國下ノ關　一　筑前國博多
一　肥前國口ノ津　一　後志國小樽

●特別輸出港規則施行細則

明治二十二年八月
大藏省令第十號

本年七月法律第二十號特別輸出港規則施行細則左ノ通相定ム

特別輸出港規則施行細則

第一條　特別輸出港規則第二條ノ外國船雇入願書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一　國名　一　船形　一　船名
一　噸數　一　輸出品名　一　輸出地名
一　仕向先外國地名　一　船長ノ姓名　一　雇入期限

第二條　外國船雇入免狀ノ期限ハ六箇月以內トス

第三條　外國船雇入免狀ノ期限經過シタル後之ヲ繼續セント欲スル者ハ特別輸出港規則第二條ニ據リ更ニ免狀ヲ受クヘシ

第四條　船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ特別輸出港所在ノ稅關出張所ニ於テ之ヲ管理ス

●外國通航ノ郵船下ノ關福江兩港ヘ回船特許

明治二十三年十月
勅令第二百六十二號

朕外國通航ノ郵船ヲ下ノ關福江兩港ニ回航スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大藏大臣ハ郵便物內地廻漕品及旅客運送ノ爲メ外國通航ノ郵船ヲ長門國下ノ關肥前國福江ノ兩港ニ廻船スルノ特許ヲ與ルコトヲ得

●第二十五類

○燈標

●明治五年第三百十二號布達ヲ廢止シ自今燈標私設ヲ禁止ス

明治十八年六月布達第十一號（太政官）

沿海府縣

明治五年十月第三百十二號布達ヲ廢止シ自今燈標私設ヲ禁止ス

但既設燈標ニシテ從前船舶ヨリ其費用ヲ徵セサルモノハ來ル明治二十五年ヲ限リ廢止シ其費用徵收願濟年限ナキモノハ此際相當ノ期限ヲ定メ更ニ工部省ヘ願出ヘシ

右布達候事

●私築燈標ノ燈費取立方

明治十九年六月遞信省令第十八號

私築燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得ス

●私設海路標識ノ變更廢停及再設等ニ關スル屆書ハ日

限ヲ定メ建設人ヨリ差出サシム

明治二十一年三月
遞信省訓令第二號

北海道廳　沿海府縣

私設海路標識建設人ニ於テ其變更廢止停止及再設ニ關スル屆書差出サヽル向モ有之取締上不都合不尠候條自今右等ノ際ハ其日限ヲ定メ凡二箇月前ニ屆出シメ候樣取計フヘシ

但燒失若クハ破壞シタルトキハ其旨直ニ屆出サシムヘシ

●測量標規則

明治二十一年七月
勅令第五十八號

朕測量標規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

測量標規則

第一條　陸地測量部及水路部ニ於テ測量標設置ノ爲メ敷地ヲ要スルトキハ官有地第三種第一項ノ土地ニ在テハ其所轄廳ニ通知スヘシ

宅地ニ非サル民有地ニ在テハ之ヲ買上ケ又ハ相當ノ借地料ヲ給シ一時之ヲ借入ルヘシ其所有者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但測量標敷地ヲ買上ケントスルニ當リ其所有者借地料ヲ要セス永遠貸地ト爲サンコトヲ望ムトキハ格別トス

第二條　測量主任官ハ測量標設置ノ場所ヲ測定シ測旗又假杭ヲ樹立スル爲メ必要ナルトキハ前條ニ揭クル官有地又ハ民有地ニ牆垣籬柵等ノ設ケアルモ之ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

所轄廳所有者又ハ管理人ノ所在遠隔ニシテ其證票ヲ示ス能ハサルトキハ施行ノ後直ニ之ヲ通知スヘシ

測量施行ノ爲メ覘標ヲ樹梢ニ附設スル場合ニ於テハ宅地內ト雖モ之ヲ施行スルコトヲ得

第三條　測量施行ノ際障碍アル竹木ハ第一條ニ揭クル民有地ニ在テハ相當ノ代價ヲ給シ之ヲ伐除スルヿトヲ得

第四條　測量施行ノ爲メ牆垣籬柵等ヲ毀壞シ又ハ植物菓物ヲ損害シタルトキハ陸地測量部及水路部ニ於テ之ヲ賠償スルモノトス但其所有者ハ三十日以內ニ申出ヘシ

第五條　測量標ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　測旗及假杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　疎虞懈怠ニ由リ測量標及測旗假杭ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ又ハ獸類ヲ繫キ又ハ繩索ノ類ヲ懸ケ又ハ貼紙シ戲書シ又ハ登攀其他惡戲ヲ爲シタ

ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●航路標識條例

明治二十一年十月
勅令第六十七號

朕航路標識條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航路標識條例

第一條　航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲メ政府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リテハ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

從來私設ノ航路標識ハ免許年限間之ヲ繼續スルコトヲ得

遞信大臣ニ於テ前二項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更又ハ撤去セシムルコトヲ得

政府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ第一項第二項ノ航路標識ヲ買上ルコトヲ得

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲナシ又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲナシタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●航路標識ヲ設置、變更、廢停ニ係ル具申及報告方

明治二十一年十月
遞信省訓令第十號

北海道廳　府縣

第一條　航路標識條例第二條第一項ニ依リ地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置セントシ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ請フトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ

一　航路標識設置位置及其近傍實測地圖

二　航路標識圖面及其構造方法並費用調書

三　一箇年間入港スヘキ日本形船西洋形船員數及其石數噸數並其最大船舶石數又ハ噸數概算調書其位置ヲ變更セントスルトキハ第一項ノ書類又其性質ヲ變更セントスルトキハ第二項ノ書類ヲ具シ遞信大臣ニ經伺ノ上之ヲ變更スヘシ

第二條　前條航路標識ヲ設置シ若クハ其位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止スルトキハ當省ヨリ告示スヘキヲ以テ地方長官ハ豫メ其實施期限ヲ遞信大臣

ニ報告スヘシ

第三條　船舶繫留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ設置スル標識ハ航路標識ト誤認シ易キ虞アルヲ以テ其設置變更等ハ都テ地方長官ニ於テ遞信大臣ニ經伺ノ上若シ航路ニ障碍アリト認メルトキハ變更又ハ撤去ヲ命スヘキ旨趣ヲ以テ之ヲ許可スヘシ

●私設航路標識取締條規

明治二十二年三月
遞信省令第二號

從來私設ノ航路標識取締ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

私設航路標識取締條規

第一條　私設航路標識建設人ニ於テ標識ノ位置又ハ性質ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ具シ管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ願出ツヘシ

第二條　前條航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止セントスルトキハ其實施期限ヲ定メ二箇月以前管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第三條　私設航路標識建設人ハ標識看守上ニ付遞信省燈臺局又ハ同局派遣ノ視察官吏ヨリ教示スルコトアルトキハ之ヲ遵守スヘシ

第四條　私設航路標識ニシテ燈費ヲ徵收スルモノハ建設人ニ於テ帳簿ヲ備ヘ其徵收額及維持費支出額ヲ記載シ置キ遞信省燈臺局派遣視察官吏ノ檢閱ヲ受クヘシ

●北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規

明治二十二年三月
遞信省令第三號

北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規左ノ通之ヲ定ム

北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規

第一條　地方稅又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ建設シタルトキハ看守員ヲ定メ其標識ニ關スル諸般ノ業務ヲ掌理セシムヘシ

但燈標ニハ二名以上ノ看守員ヲ置キ內一名ヲ看守長ト爲スヘシ

第二條　看守長ハ遞信省燈臺局又ハ其燈臺ニ於テ看守ノ業務ヲ習熟シタルモノニ限ル

第三條　航路標識看守上遞信省燈臺局定ムル所ノ看守教則及同局又ハ同局派遣ノ視察官吏ヨリ教示スル所ノ事項ハ之ヲ遵守スヘシ

第四條　燈油其他點燈用ノ諸物品ハ遞信省燈臺局ノ認可ヲ經タルモノニ非サレハ使用スルヲ得ス

●私設海路標識統計樣式ヲ定ム

明治二十年十月
遞信省訓令第六號

私設海路標識統計様式本年ヨリ左ノ雛形ニ倣ヒ調製シ翌年二月十五日迄ニ當省燈臺局ヘ差出ヘシ

但明治十六年八月元工部省第二號達廢止ス

北海道廳
沿海府縣

第一　何府縣私設燈標統計表　　明治何年分

燈標通號	維持費				合計	燈費				入港船舶		守燈人員
	給料	燈油代	修繕費	雜費		收入高	日本形	西洋形	噸及石數各合計高			
何處燈臺												
何處燈竿												
合計												

第二　何府縣私設畫標統計表　　明治何年分

畫標通號	維持費				合計	標費				入港船舶		看守人員
	給料	修繕費	雜費			收入高	日本形	西洋形	噸及石數各合計高			
何處浮標												
何處立標												
何處陸標												
何處浮標												
合計												

●私設海路標識統計様式ノ訓令中追加更正

明治二十三年一月
遞信省訓令第一號

北海道廳
府縣

明治二十年十月當省訓令第六號私設ノ上ニ「北海道廳府縣立市町村立並」ノ十二字ヲ加ヘ及私設ノ下海路ヲ航路ニ改メ様式雛形ヲ左ノ通更正ス

第一　北海道廳何府縣立(北海道何府縣何市町村立)(私設)燈標統計表　　明治何年分

燈標通號	維持費					入港船舶			看守人員
	給料	燈油代	修繕費	雜費	計	日本形	西洋形	船數一噸數	

何處燈臺									
何處燈竿									
合計									

備考　從前願濟ニテ燈費ヲ徵收スルモノハ「燈費收入高」ノ一項ヲ設ケ記載スヘシ

第二　北海道廳何府縣立（北海道何府縣何市町村立）（私設）燈標統計表　明治何年分

燈標通號	維持費				入港船舶				看守人員
	給料	修繕費	雜費	計	日本形		西洋形		
					船數	石數	船數	噸數	
何處浮標									
何處立標									
何處陸標									
何處澪標									
合計									

備考　從前願濟ニテ標費ヲ收入スルモノハ「標費收入高」ノ一項ヲ設ケ記載スヘシ

●陸地測量標條例　明治二十三年三月法律第二十三號

朕陸地測量標條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量標條例

第一條　本條例中測量標ト稱スルモノハ三角點標石、水準點標石、覘標、標杭、測旗、假杭トス

第二條　陸地測量部ニ於テ宅地ニアラサル民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有者之ヲ拒ムコトヲ得ス又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及ヒ民有宅地內ト雖モ已ムヲ得サル場合ニ於テハ測旗假杭ニ限リ前項ニ準シテ之ヲ設置スルコトヲ得

第三條　民有地ニ標石ヲ設置スルトキハ其敷地ヲ買上クヘシ但所有者ニ於テ其土地ヲ寄附シ又ハ借地料ヲ要セス永遠貸地トナサンコトヲ望ムトキハ格別トス

第四條　民有地ニ覘標及ヒ標杭ヲ設置シタルトキハ宅地ニ在テハ相當ノ借地料ヲ給シ田畑鹽田鑛泉地ニ在テハ一箇年一坪ニ付金三錢其他ニ在テハ同金一錢ノ割ヲ以テ借地料ヲ給ス但所有者ニ於テ其土地ヲ寄附シ又ハ借地料ヲ要セス貸地トナサン

コトヲ望ムトキハ格別トス

第五條　測量主任官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種ノ土地及ヒ民有宅地内若クハ牆垣籬柵内ニ立入ラントスルトキハ先ツ其所管廳又ハ所有者ニ通知スヘシ但官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地竝宅地ニアラサル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル田畑等ノ垣柵内ニ在テハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第六條　官有地第三種第一項ノ土地及ヒ宅地ニアラサル民有地内ニ於テ測量施行ノ爲メ障碍トナル竹木ハ己ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ又樹上ニ覘標ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ補償ヲナスヘシ

第七條　測量施行ノ爲メ牆垣籬柵等又ハ植物ヲ毀損シタルトキハ相當ノ補償ヲナスヘシ

第八條　第三條ノ敷地買上料第四條ノ宅地借地料及ヒ第六條第七條ノ補償金額ニ付所有者ト協議調ハサルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ評定セシム

市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　標石ハ諸測量ノ基準點トシテ官民共ニ使用スルコトヲ得

第十條　標石ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　覘標及ヒ標杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　測旗及ヒ假杭ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲チ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戲ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條　本條例施行ノ細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附則

第十五條　本條例中市制町村制ノ實施ニ至ラサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長ヲシテ之ヲ行ハシム

●陸地測量標條例施行細則

明治二十三年四月
陸軍省令第十二號

陸地測量標條例施行細則左ノ通定ム

陸地測量標條例施行細則

第一條　陸地測量ハ三角測量及セ地形測量ノ二次ニ分チテ施行ス

第二條　標石ハ永遠ニ保存シ諸測量ノ基準點ニ供用ス其種類左ノ如シ

一等三角點標石（第一圖）

二等三等三角點標石（第二圖）

水準點標石（第三圖）

第三條　覘標及標杭ハ地形測量ヲ終ルノ時ニ至ルマテ假杭ハ三角點覘標及ヒ水準點標石ヲ設置スルノ時ニ至ルマテ保存スルモノニシテ其種類左ノ如シ

三角點ノ覘標（第四第五第六第七第八圖）

地形圖根點ノ覘標（第八圖ニ同シ）

四等三角點ノ標杭及ヒ傍示杭（第九圖）

三角（一等水準）點假杭（第十圖）

二等水準點標杭及ヒ傍示杭（第十一圖）

地形圖根點ノ標杭（第十二圖）

地形水準點ノ標杭（第十三圖）

第四條　標石敷地ハ方形ニシテ標石ヲ以テ其中心ヲ領セシムル者ニシテ其大サ左ノ如シ但地形ニ依リ本條ニ據ル可ラサルトキハ格別トス

三角點標石敷地一坪

水準點標石敷地半坪

第五條　測量標ヲ建設シタルトキ測量主任官ハ建設ノ位置標ノ種類地坪及買上ケ若クハ借リ入レ等ノ要件ヲ記載シ最近ノ市役所又ハ町村役場ニ通知ス可シ

第六條　市役所町村役場前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ其他ノ國郡町村名字番號及官有ニ係ルモノハ所管ノ廳名民有ニ係ルモノハ所有者ノ姓名等詳細取調測量主任官ニ報告ス可シ但民有ニ係ルモノハ所有者ヨリ受書ヲ取リ同時ニ送致スルモノトス

第七條　測量主任官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ第五條ノ要件ヲ記載シタル書面ニ此報告書ヲ併セテ其地所轄ノ道廳府縣廳ニ送致ス可シ

第八條　道廳府縣廳前條ノ書類ヲ受ケタルトキ測量標建設地ノ官有ニ係ルモノハ之ヲ其所管廳ニ通知シ民有ニ係ルモノハ其所有者ニ對シ買上ケ若クハ借リ入レノ處分ヲ爲ス可シ

第九條　本條例第三條ノ敷地買上代同第四條ノ借地料ハ本人ヨリ其地所轄ノ道廳府縣廳ニ申出該廳ハ陸地測量部ニ其金額ヲ請求シテ之ヲ本人ニ支給ス可シ

第十條　本條例第五條ノ證票ハ左圖ノ如シ

●陸地測量標條例施行細則第九條改正

明治二十三年十二月陸軍省令第三十一號

陸地測量部條例施行細則第九條左ノ通改正ス、第九條本條例第三條ノ敷

地買上代ハ其都度之ヲ支給シ同第四條ノ借地料ハ合計年度末ニ於テ之ヲ支給ス但借地ノ一箇年ニ滿タサルモノハ月割ヲ以テ其料ヲ給ス、數地買上代及借地料ハ本人ヨリ其地所轄ノ道廳府縣廳ニ請求書ヲ差出該廳ハ管内ノ分ヲ取纏メ其金額ヲ陸地測量部ニ請求シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ但借地料請求書ハ三月五日迄ニ該廳ヘ差出該廳ハ同月十日限リ之ヲ發送スヘシ

（「　」內及割印ハ朱）

表面

割印
第「何」號
陸地測量證

裏面

陸地測量部「何」科「何々」
官　姓　名

第十一條　本條例第六條官有ニ係ル竹木ヲ伐除シタルトキハ測量主任官其竹木ノ明細書ヲ作リ所管廳ニ報告シ所管廳補償ヲ要スルトキハ相當ノ額ヲ定メ陸地測量部ニ請求ス可シ

第十二條　本條例第六條第七條人民ニ對スル補償金ノ仕拂ハ出張測量主任官ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第十三條　本條例第九條ニ依リ標石ヲ使用セントスル者ハ豫メ使用ノ日數及其事由ヲ詳記シ其地所轄ノ道廳府縣廳ニ申請シテ許可ヲ請フヘシ

第十四條　一地區ノ三角測量及ヒ地形測量ニ著手スル毎ニ陸地測量部ハ前以テ其旨ヲ該地區ノ道廳府縣廳ニ通知シ該廳ハ其地區ニ達ス可シ

第十五條　一地區ノ地形測量ヲ完成スル毎ニ陸地測量部ハ其旨ヲ該地區ノ道廳府縣廳ニ通知シ該廳ハ之ヲ其地區ニ達ス可シ

第十六條　標石ヲ設置シ又ハ標杭覘標ヲ建設シタルトキハ陸地測量部ハ其旨ヲ其地所轄ノ道廳府縣廳及ヒ同警察本署ニ通知ス可シ

第十七條　天災地變其他ノ原因ニヨリ標石覘標標杭ノ毀損變位等ノ事アルトキハ郡市役所及ヒ警察署ハ其旨ヲ所轄道廳府縣廳ニ届出ツヘシ

第十八條　道廳府縣廳前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ陸地測量部ニ通知シ同部ニ於テ修理又ハ改造ヲ執行シ更ニ其旨ヲ道廳府縣廳ニ通知シ該廳ハ之ヲ警察署及ヒ郡市役所ニ通知ス可シ

第十九條　標石標杭覘標ヲ移轉セサル可ラサルノ事由アルトキ其公事ニ係ルモノハ主務廳ヨリ私事ニ係ルモノハ本人ヨリ其旨ヲ道廳府縣廳ニ請求又ハ出願ス可シ該廳ニ於テハ之ヲ審査シ其移轉ノ必要ヲ認ムルトキハ陸地測量部ニ申牒ス可シ但移轉ノ爲メニ要スル費用ハ其移轉要求ノ廳若クハ出願者ヨリ支辨セシム

第二十條　前條ノ申牒ヲ受ケタルトキハ陸地測量部ニ於テ移轉ヲ執行シ更ニ其旨ヲ

道廳府縣廳ニ通知ス可シ

第二十一條　標旗或ハ假杭ヲ移轉セサル可ラサルノ事由アルトキハ主務廳若クハ本人ヨリ出張測量主任官ニ請求又ハ出願シテ承認ヲ經可シ但出張測量官居合セサル場合ニ在テハ第十九條ニ準ス

第二十二條　測量施行ニ當リ之ヲ要スルトキハ陸地測量部ハ道廳府縣廳若クハ郡市役所ニ照會シ諸般ノ取調ヲ求ムルコトヲ得但事柄ニ依リ出張測量主任官ヲシテ直チニ之ヲ爲サシムルコトアル可シ

附則

第二十三條　本則中市制町村制ノ實施ニ至ラサル地方ニ在テハ市役所ハ區役所町村役場ハ戸長役場トス

（圖式略ス）

●水路測量標條例

明治二十三年五月
法律第三十八號

朕水路測量標條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水路測量標條例

第一條　本條例中測量標ト稱スルモノハ基點標測標トス

第二條　水路測量官ニ於テ民有地ニ測量標ヲ設置スル爲メ敷地ヲ要スルトキハ所有者ト協議ノ上之ヲ使用スヘシ又官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地ニ在テハ所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第三條　水路測量官測量ノ爲メ官有地第二種第三種第二項第三項第四項第四種及ヒ民有宅地內若クハ牆垣籬柵內ニ立入ラントスルトキハ先ツ其所管廳又ハ所有者ニ通知スヘシ但官有地第三種第一項第五項第六項第七項第八項ノ土地並宅地ニアラサル民有地及ヒ所有者又ハ管理人ノ所在遠隔スル田畑等ノ垣柵內ニ在テハ直ニ立入ルコトヲ得此場合ニ於テハ測量官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第四條　測量施行ノ爲メ障碍トナル竹木ヲ已ムヲ得ス伐除シ又牆垣籬柵植物等ヲ毀損シタルトキハ所有者ト協議シ相當ノ補償ヲナスヘシ

第五條　基點標ヲ移轉シ若クハ毀壞シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　測標ヲ移轉シ若シクハ毀壞シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　過誤ニ由リ測量標ヲ毀壞シ又ハ之ニ瓦礫其他ノ雜物ヲ擲ケ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ或ハ貼紙シ或ハ戲書シ其他惡戲ヲ爲シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●水路測量標條例中基點標測量及測量官證票

明治二十三年六月
海軍省告示第十六號

水路測量標條例中第一條ノ基點標測標及第三條ノ測量官證票ハ左ノ如シ

基點標　本標ハ測量標設置ノ位置中重要ナル場所ニ於テ測標撤去ノ後永遠保存ノ爲メ設置スルモノトス則第一圖ノ如シ

（第一圖略ス）

測標　本標ハ測量中設置シ測量終レハ撤去スルモノトス則第二圖以下ノ如シ

（第二圖略ス）

紅白二色ノ金巾ヲ用ユ其大サハ測望ノ難易ニ應シテ各大小アリ、竿ハ竹、杭ハ木材片面ニ水路測點ト書ス或ハ傍側ニ木票ヲ添設シテ之レニ書スルコトアルヘシ

張綱ハ株梠繩ヲ用ユ塲合ニヨリ麻若クハ藤繩ヲ用ユルコトアルヘシ

（第三四圖略ス）

黑色或ハ白色又ハ黑白二色ニ分色シタル籠球ヲ用ユ杆ハ木材張綱ハ前同斷

黑或ハ白塗シタル蓆或ハ木板ヲ木杆ニ付シ高ク之ヲ揭ク張綱前同斷

（第五六圖略ス）

四柱ヲ錐體狀ニ樹立シ其上部ニ黑或ハ白塗シタル木板或ハ武利器板ヲ張付ス

木杆ニ白塗シタル木板ヲ正交面ニ張付ス

（第七八圖略ス）

白塗シタル蓆等ヲ方錐體狀ニ作リ杆ニ付シテ之ヲ設ク繁茂シタル樹枝ヲ束テ旗竿ノ中央ニ纏フ

右ニ示シタルモノヽ外、岸角、石垣ヲ白塗シテ標トナス又樹木、牆垣柵及家屋等ノ目標トナルヘキモノヲ撰ミ白塗シテ測標トスルコトアルヘシ

測量官證票

表面

第何號
製印
水路測量證

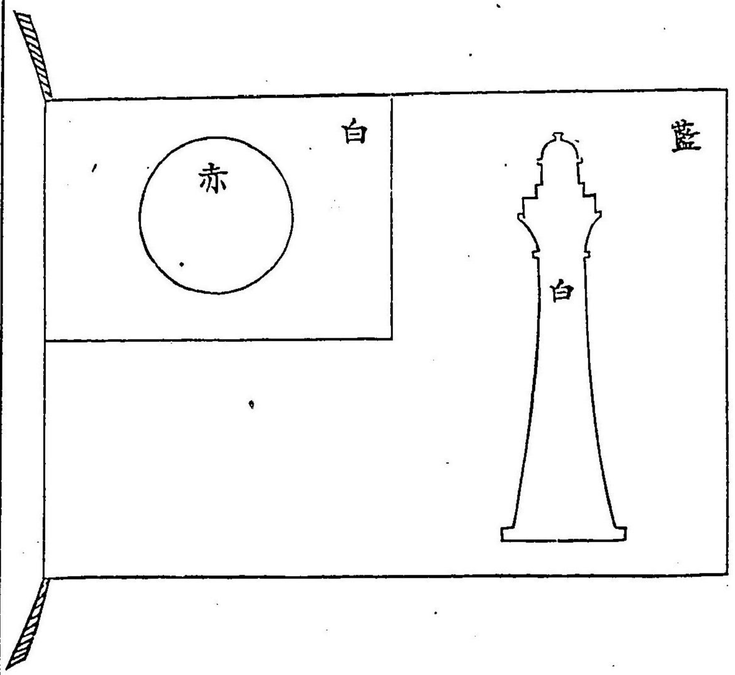
裏面

職、官氏名

●燈臺局附屬船旗章雛形

明治十九年十一月
遞信省告示第九十九號

當省燈臺局附屬船旗章左ノ雛形ノ通之ヲ定ム



一　縱五尺五寸　横八尺

二　縱三尺　横四尺五寸

三　縱二尺　横三尺